

国際センター 活動報告書

令和2(2020)年度

Center for International Programs
Fukuoka University



人をつくり、時代を拓く。

福岡大学



令和 2（2020）年度

**国際センター
活動報告書**

1	令和2年度国際センター事業実施の概要	1
2	協定締結校	
	協定締結校一覧表	2
	新規協定締結機関	4
3	2020年度協定校実施プログラム	5
4	外国人留学生数（国・地域別、学部〔研究科〕別、学部留学生・年次別）	6
5	外国人留学生在籍数過年度実績	8
6	学部留学生	
	国際センターが実施している学部留学生への生活支援	9
	外国人留学生授業料減免に関する取扱要領	12
	留学生との懇談会参加状況	13
	留学生研修旅行年度別状況	13
	留学生と地域との交流会実績	14
7	学部留学生選抜	
	学部留学生選抜過年度実績（学部学科別）	15
	学部留学生選抜過年度実績（国・地域別）	16
	日本語学校等別入試状況	17
	令和2年度外国人留学生対象進学説明会	18
	令和2年度オープンキャンパス時の説明会	18
	令和2（2020）年度日本留学フェア	18
8	留学に関するプログラム	
	留学フェア2020、個別相談会	19
	令和2年度海外留学プログラム説明会（オープンキャンパス）	19
	令和2年度後期募集国際センター留学プログラム説明会	19
	令和2年度国際センター教員による留学相談	19
9	留学フェア2020	20
	アンケート集計結果	
10	海外研修・語学研修	
	（派遣）2020年度海外研修（蔚山大学校）	21
	日程、応募者数及び派遣者数	
	（派遣）2020年度海外研修（ウオッシュバン大学）	21
	日程、応募者数及び派遣者数	
	（派遣）2020年度海外研修（グリフィス大学）	21
	日程、応募者数及び派遣者数	
	（派遣）海外研修応募者数過年度実績	22

	(派遣) 2020年度海外夏期英語研修 (ニューカッスル大学)	23
	日程、参加者数	
	(派遣) 2020年度海外春期中国語研修 (揚州大学)	23
	日程、参加者数	
11	交換留学	
	(受入れ) 令和2年度交換留学生名簿	24
	(受入れ) 交換留学生過年度実績	25
	(受入れ) 交換留学生過年度実績 (所属学部別)	26
	(派遣) 令和2年度交換留学生派遣大学別一覧	27
	(派遣) 交換留学生過年度実績	28
	(派遣) 交換留学生過年度実績 (学部別)	29
12	外国人研究生	
	2020年度外国人研究生名簿	30
	外国人研究生過年度実績 (国・地域別)	30
13	外国人研究員	
	2020年度外国人研究員	31
	外国人研究員過年度実績 (国籍別)	32
14	福岡大学生のための特別授業	33
15	令和2年度国際センター各種行事・委員会記録	34
16	国際センター派遣プログラム 事件・事故発生時における緊急連絡網	35
17	福岡大学国際交流チーム (FIT)	36
	募集、登録者数、活動状況	
18	国際センター運営委員会構成員名簿	39
19	2020年度国際センター企画推進会議	40
	協議事項一覧	
20	2020年度国際センター運営委員会協議事項・報告事項一覧	41
21	令和2年度に学部等で実施された学生を対象とした国際交流事業	45
22	グローバル人材育成推進事業総括	
	「グローバル人材育成推進事業」の総括	47

令和2年度 1. 国際センター事業実施の概要

項 目	内 容
〔協定校〕	22 カ国・地域 82 大学 1 機関（令和3年3月31日現在） 新規協定：モンクット王工科大学ラートクラバン校
〔学生のための事業計画〕 外国人学生入試関連 交換協定に基づくプログラム 海外研修 海外夏期語学研修（派遣） 海外春期語学研修（派遣） 外国人留学生支援業務 地域との交流活動 留学フェア 福岡大学ボランティア学生（FIT） リファレンスコーナーでの情報提供 卒業学部留学生データ管理	学部留学生入試（入試要項作成から入学手続きまで） 独立行政法人日本学生支援機構主催日本留学フェア（新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオンラインに変更） 外国人学生のための大学進学フェア（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし） 交換留学生の受入（9人）、派遣（新型コロナウイルス感染症拡大に伴いなし） 蔚山大学校（韓国）、ウオッシュバン大学（アメリカ）、グリフィス大学（オーストラリア）（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし） ニューカッスル大学（イギリス）（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし） 揚州大学（中国）（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし） 奨学金推薦（福岡大学私費外国人留学生奨学金、福岡大学アジア特定地域学部留学生学修奨励費含む） 留学生研修旅行（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし）、在留手続き、国際交流会館国際交流棟（宿舍手続、学生委員指導）、生活相談、国際センター教員による留学生懇談会（週2回オンライン）、 授業料減免（基準を満たす学部留学生に30%、更に成績優秀者には20%の追加減免） 国際交流会館国際交流棟入居者と片江地域住民との交流（隔年実施のため2020年度はなし） 国際センターのプログラム紹介と体験者による説明会（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし） 外国人留学生の生活支援、センタープログラムへの協力活動を行う学生ボランティアとして90人が登録（2020年度） 学生が図書、雑誌、カタログ等を閲覧するためのコーナーの運営管理 卒業した学部留学生の連絡先データの整理と管理
〔G.A.P. に関すること〕	G.A.P. 説明会、講演会、海外研修（アメリカ・シアトル大学、ベトナム・ハノイ大学）、海外インターンシップ（オーストラリア）、海外短期教育研修（アメリカ・ネブラスカ大学）、TGG（東京）（全て新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし）、G.A.P. 科目・G.A.P. 講座（新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオンライン、一部実施なし）
〔広報活動〕 印刷物 オープンキャンパス インターネットによる情報提供 卒業学部留学生への情報提供	国際センター活動報告書 Center for International Programs Guide Book（隔年刊行のため2020年度はなし） 学部留学生をめぐる皆さんのためのガイドブック、学部留学生ガイドブック 留学体験記、国際交流体験記（ホストファミリー体験、FIT 活動体験） 留学個別相談（海外留学、学部留学生）、海外留学プログラム紹介（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし） 国際センターホームページ（日本語、英語） 卒業した学部留学生に広報誌『学園通信』を送付（2021年2月）
〔教育活動〕 交換留学生のための教育プログラム 福岡大学生のための特別授業	日本語・日本文化授業（春学期、秋学期）（新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオンライン） 九州国立博物館・太宰府見学、ホームステイ、大相撲九州場所観戦（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし） 朝鮮語を伸ばそう（中級レベル）（前期：9人、後期：5人）（新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオンライン） 步步高（中国語講座）（前期：7人、後期：11人）（新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオンライン） 実践フランス語（前期：12人、後期：5人）（新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオンライン） アジア圏協定校との学生交流セミナー（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし）

〔国際センター運営委員会〕		〔国際センター企画推進会議〕		〔国際センター事務局〕	
センター長	1人	センター長	1人	部長	1人
センター長補佐	3人	センター長補佐	3人	〔国際センター事務室〕	
センター委員	9人	センター委員	1人	室長	1人
センター教員	4人	センター教員	1人	室長補佐	1人
センター事務責任者	1人	センター事務責任者	1人	専任職員	4人
				嘱託職員	2人
				アルバイト	1人

2. 協定締結校

●協定締結校一覧表

22 カ国・地域 82 大学 1 機関※

(R2.3.31 現在)

	協定締結年月日 (協定発効年月日)	元 号	協 定 校 名 ○ 交換留学覚書締結校 △ 国際センター海外研修実施校 (国公) 国立、州立大学等、(私) 私立大学	国・地域	有 効 期 限 (次回更新日)	備 考
1	1984.10.01 (1984.10.01)	S.59	ウオッシュバン大学 (国公) △ Washburn University of Topeka	アメリカ	期限は定めていない。	1994年10月1日 更新
2	1985.06.28 (1985.06.28)	S.60	ニューカッスル大学 (国公) ○ △ Newcastle University	イギリス	期限は定めていない。	1994年2月14日 更新
3	1988.01.09 (1988.04.01)	S.63	カンザス大学 (国公) University of Kansas	アメリカ	期限は定めていない。	
4	1990.12.06 (1991.01.01)	H.2	蔚山大学校 (私) ○ △ University of Ulsan	韓国	期限は定めていない。	
5	1990.12.11 (1991.01.01)	H.2	リーズ大学 (国公) ○ University of Leeds	イギリス	期限は定めていない。	
6	1991.11.28 (1992.01.01)	H.3	グリフィス大学 (国公) ○ △ Griffith University	オーストラリア	期限は定めていない。	
7	1995.07.31 (1995.09.01)	H.7	ジョージア工科大学 (国公) Georgia Institute of Technology	アメリカ	期限は定めていない。	
8	1997.06.25 (1997.06.25)	H.9	ルーヴァン・カトリック大学 (私) Catholic University of Louvain	ベルギー	5年間 2020年6月26日まで	2015年5月25日 更新
9	2000.08.30 (2000.09.01)	H.12	華東師範大学 (国公) ○ East China Normal University	中国	期限は定めていない。	
10	2000.12.04 (2000.12.04)	H.12	釜山大学校 (国公) ○ Pusan National University	韓国	期限は定めていない。	
11	2001.05.30 (2001.06.01)	H.13	輔仁大学 (私) ○ Fu Jen Catholic University	台湾	期限は定めていない。	2006年4月20日 更新
12	2001.07.09 (2001.08.01)	H.13	中国政法大学 (国公) China University of Political Science and Law	中国	期限は定めていない。	2006年6月20日 更新
13	2001.09.04 (2001.09.04)	H.13	梨花女子大学校 (私) ○ Ewha Womans University	韓国	期限は定めていない。	
14	2001.10.12 (2001.10.01)	H.13	トリブヴァン大学 (国公) Tribhuvan University	ネパール	期限は定めていない。	2006年8月6日 更新
15	2002.01.11 (2002.01.11)	H.14	連邦立サンタ・カタリナ大学 (国公) ○ Federal University of Santa Catarina	ブラジル	5年間 2023年6月10日まで	2018年6月11日 更新
16	2002.01.21 (2002.01.21)	H.14	揚州大学 (国公) ○△ Yangzhou University	中国	期限は定めていない。	
17	2002.02.01 (2002.02.01)	H.14	ガジャマダ大学 (国公) Gadjah Mada University	インドネシア	期限は定めていない。	
18	2002.03.29 (2002.03.29)	H.14	東義大学校 (私) ○ Dong-eui University	韓国	期限は定めていない。	
19	2002.07.24 (2002.07.24)	H.14	パドヴァ大学 (国公) University of Padova	イタリア	期限は定めていない。	
20	2002.08.01 (2002.08.01)	H.14	煙台大学 (国公) ○ Yantai University	中国	期限は定めていない。	
21	2002.08.09 (2002.08.09)	H.14	ドゥ・ラ・サル大学 (私) De La Salle University	フィリピン	期限は定めていない。	
22	2002.10.25 (2002.10.25)	H.14	高麗大学校 (私) ○ Korea University	韓国	期限は定めていない。	2007年7月10日 更新
23	2003.06.08 (2003.06.08)	H.15	バース大学 (国公) University of Bath	イギリス	期限は定めていない。	
24	2005.09.13 (2005.09.13)	H.17	国家法官学院 National Judges College	中国	期限は定めていない。	※
25	2006.12.18 (2006.12.18)	H.18	啓明大学校 (私) ○ Keimyung University	韓国	期限は定めていない。	
26	2006.12.21 (2006.12.21)	H.18	パリ・ディドロ大学 (パリ第7) (国公) University Paris Diderot - Paris 7	フランス	5年間 2021年8月31日まで	2016年9月1日 更新
27	2007.06.22 (2007.06.22)	H.19	広州大学 (国公) ○ Guangzhou University	中国	期限は定めていない。	
28	2008.11.21 (2008.11.21)	H.20	中央財經大学 (国公) ○ Central University of Finance and Economics	中国	期限は定めていない。	
29	2009.06.25 (2009.06.25)	H.21	フリードリヒ・シラー大学イェナ (国公) Friedrich Schiller University of Jena	ドイツ	期限は定めていない。	
30	2009.08.10 (2009.08.10)	H.21	パムッカレ大学 (国公) ○ Pamukkale University	トルコ	期限は定めていない。	
31	2010.05.17 (2010.05.17)	H.22	スルタン・イドリス教育大学 (国公) Sultan Idris Education University	マレーシア	5年間 2020年5月17日まで	2015年5月17日 更新

32	2010.05.27 (2010.05.27)	H.22	仁川大学校（国公）○ Incheon National University	韓国	期限は定めていない。	
33	2010.06.02 (2010.06.02)	H.22	東亜大学校（私）○ Dong-A University	韓国	期限は定めていない。	
34	2010.06.29 (2010.06.29)	H.22	東西大学校（私）○ Dongseo University	韓国	期限は定めていない。	
35	2011.04.08 (2011.04.08)	H.23	東北林業大学（国公）○ Northeast Forestry University	中国	期限は定めていない。	
36	2011.04.19 (2011.04.19)	H.23	タンペレ大学（国公）○ University of Tampere	フィンランド	期限は定めていない。	
37	2011.04.25 (2011.04.25)	H.23	ハルビン師範大学（国公）○ Harbin Normal University	中国	期限は定めていない。	
38	2011.08.19 (2011.08.19)	H.23	慶熙大学校（私）○ Kyung Hee University	韓国	期限は定めていない。	
39	2011.09.28 (2011.09.28)	H.23	黒龍江大学（国公）○ Heilongjiang University	中国	期限は定めていない。	
40	2012.04.01 (2012.04.01)	H.24	国立高雄大学（国公）○ National University of Kaohsiung	台湾	期限は定めていない。	
41	2012.04.10 (2012.04.10)	H.24	釜慶大学校（国公）○ Pukyong National University	韓国	期限は定めていない。	
42	2012.09.07 (2012.09.07)	H.24	ハルビン理工学大学（国公）○ Harbin University of Science and Technology	中国	期限は定めていない。	
43	2012.09.08 (2012.09.08)	H.24	ハルビン商業大学（国公）○ Harbin University of Commerce	中国	期限は定めていない。	
44	2012.10.26 (2012.10.26)	H.24	パジャジャラン大学（国公）○ Padjadjaran University	インドネシア	期限は定めていない。	
45	2012.11.20 (2012.11.20)	H.24	リヨン政治学院（国公）○ Sciences Po Lyon	フランス	5年間 2022年11月12日まで	2017年11月13日 更新
46	2012.11.22 (2012.11.22)	H.24	セルジー・ポントワーズ大学（国公）○ The University of Cergy-Pontoise	フランス	5年間 2022年10月25日まで	2017年10月26日 更新
47	2013.07.01 (2013.07.01)	H.25	リエージュ大学（国公）○ The University of Liege	ベルギー	期限は定めていない。	
48	2013.07.19 (2013.07.19)	H.25	東国大学校（私）○ Dongguk University	韓国	期限は定めていない。	
49	2013.07.25 (2013.07.25)	H.25	西安交通大学（国公）○ Xi'an Jiaotong University	中国	期限は定めていない。	
50	2013.08.29 (2013.08.29)	H.25	ハノイ大学（国公）○ Hanoi University	ベトナム	期限は定めていない。	
51	2013.09.23 (2013.09.23)	H.25	西北大学（国公） Northwest University	中国	期限は定めていない。	
52	2013.10.22 (2013.10.22)	H.25	ダナン大学（国公）○ The University of Danang	ベトナム	期限は定めていない。	
53	2013.11.13 (2013.11.13)	H.25	国民大学校（私）○ Kookmin University	韓国	期限は定めていない。	
54	2015.05.12 (2015.05.12)	H.27	長安大学（国公） Chang'an University	中国	期限は定めていない。	
55	2015.06.24 (2015.06.24)	H.27	デュースブルク・エッセン大学（国公） University of Duisburg Essen	ドイツ	期限は定めていない。	
56	2015.06.25 (2015.06.25)	H.27	銘傳大学（私） Ming Chuan University	台湾	期限は定めていない。	
57	2015.07.24 (2015.07.24)	H.27	プノンベン大学（国公） Royal University of Phnom Penh	カンボジア	5年間 2020年7月24日まで	
58	2015.09.18 (2015.09.18)	H.27	培材大学校（私）○ Pai Chai University	韓国	期限は定めていない。	
59	2016.02.18 (2016.02.18)	H.27	シアトル大学（私） Seattle University	アメリカ	5年間 2021年2月18日まで	
60	2017.01.05 (2017.01.05)	H.28	セントラル・フィリピン大学（私） Central Philippine University	フィリピン	5年間 2022年1月5日まで	
61	2017.01.27 (2017.01.27)	H.28	カセサート大学（国公） Kasetsart University	タイ	期限は定めていない。	
62	2017.04.11 (2017.04.11)	H.29	セビージャ大学（国公）○ University of Seville	スペイン	4年間 2021年4月10日まで。	
63	2017.07.21 (2017.07.21)	H.29	セントラル・ランカシャー大学（国公）○ University of Central Lancashire	イギリス	期限は定めていない。	
64	2017.07.24 (2017.07.24)	H.29	ジョモ・ケニアッタ農業工業大学（国公） Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology	ケニア	5年間 2022年7月23日まで。	

65	2017.07.12 (2017.07.12)	H29	イスラム州立大学ジャカルタ校 (国公) State Islamic University Syarif Hidayatullah Jakarta	インドネシア	5年間 2022年7月11日まで。	
66	2017.08.10 (2017.07.27)	H29	サリバジャヤ医療科学大学 Cyberjaya University College of Medical Sciences	マレーシア	期限は定めていない。	2020年12月26 日更新
67	2017.09.15 (2017.09.15)	H29	バイオ産業大学 (私) Ecole de Biologie Industrielle	フランス	5年間 2022年9月14日まで。	
68	2017.11.22 (2017.11.22)	H29	イスラム州立大学マラン校 (国公) Universitas Islam Negeri Maulana Malik Ibrahim Malang	インドネシア	5年間 2022年11月21日まで。	
69	2018.02.16 (2018.02.16)	H29	慶南大学校 (私立) ○ Kyungnam University	韓国	期限は定めていない。	
70	2018.05.10 (2018.05.10)	H30	済南大学 (公立) University of Jinan	中国	期限は定めていない。	
71	2018.05.10 (2018.05.10)	H30	マラヤ大学 (国立) ○ The University of Malaya	マレーシア	5年間 2023年5月9日まで。	
72	2018.06.26 (2018.06.26)	H30	慶北大学校 (国立) ○ Kyoungpook University	韓国	期限は定めていない。	
73	2018.11.23 (2018.11.23)	H30	イスラム州立大学バンドン校 (州立) Universitas	インドネシア	5年間 2023年11月22日まで。	
74	2019.01.07 (2018.12.25)	H31	釜山外国語大学校 (私立) ○ Busan University of Foreign Studies	韓国	期限は定めていない。	
75	2019.02.04 (2019.02.04)	H31	マラ工科大学 (国立) ○ Universiti Teknologi Mara	マレーシア	3年間 2022年2月3日	
76	2019.04.17 (2019.04.17)	H31	静宜大学 Providence University	台湾	期限は定めていない。	
77	2019.06.03 (2019.03.25)	R1	ブラウィジャヤ大学 (私立) ○ Universitas Brawijaya	インドネシア	5年間 2023年3月25日まで。	
78	2019.06.24 (2019.06.24)	R1	マラン州立大学 (公立) Universitas Negeri Malang	インドネシア	期限は定めていない。	
79	2019.07.03 (2019.07.03)	R1	成均館大学校 (国立) ○ Sungkyunkwan University	韓国	5年間 2023年7月2日まで。	
80	2019.09.09 (2019.09.09)	R1	アサンプション大学 (国立) ○ Assumption University	タイ	期限は定めていない。	
81	2019.09.11 (2019.09.11)	R1	上海財経大学 (州立) ○ Shanghai University of Finance and Economics	中国	3年間 2023年9月10日まで。	
82	2020.01.17 (2020.01.17)	R2	山東工商学院 (省立) Shandong Technology and Business University	中国	期限は定めていない。	
83	2020.8.11 (2020.8.11)	R2	モンクット王工科大学ラートクラバン校 (国立) King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	タイ	5年間 2025年8月10日まで。	

●新規協定締結機関

モンクット王工科大学ラートクラバン校 (タイ、バンコク市)

1960年創立の国立大学。Suchatvee Suwansawat学長。学生数約 23,600 人

工学部、建築学部、農学部、産業教育学部、理学部 国際学部、情報技術学部の7学部と大学院を有する。

協定発効日：令和2年8月11日

所 在 地：タイ・バンコク

協定内容：学生の交流、教職員の交流、共同研究、双方の大学が企画したセミナー・会議への参加、研究活動に関する情報・学術出版物の交換

3. 2020年度協定校実施プログラム

【韓国】

協 定 校 名：慶熙大学校

プログラム名：オンライン短期韓国語課程

期 間：令和2年8月3日（月）～8月21日（金）3週間

受 講 者 数：1人（人文学部東アジア地域言語学科2年）

【韓国】

協 定 校 名：慶熙大学校

プログラム名：オンライン短期韓国語週末課程（秋学期）

期 間：令和2年10月24日（土）～12月26日（土）10週間

受 講 者 数：1人（人文学部文化学科1年）

【韓国】

協 定 校 名：慶熙大学校

プログラム名：オンライン短期韓国語週末課程（冬学期）

期 間：令和3年1月9日（土）～3月20日（土）10週間

受 講 者 数：1人（人文学部東アジア地域言語学科2年）

【韓国】

協 定 校 名：慶北大学校

プログラム名：2020KNU オンラインウィンタースクール

期 間：令和3年1月25日（月）～2月5日（金）2週間

受 講 者 数：4人（人文学部英語学科2年、英語学科1年、経済学部経済学科3年）

4. 外国人留学生数

(国・地域別)

(単位：人)

R2. 10. 1現在

国・地域	学部留学生		交換留学生		外国人研究生		大学院留学生		大学院研究生		大学院研究留学生		合計	
	全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数
中国	52	15	3	2	7	2	33	19					95	38
韓国	22	4					1	1					23	5
ベトナム	5	2			1	1	4	4					10	7
台湾	3	1			1								4	1
フランス			5	2									5	2
インドネシア	1						1						2	
タイ							1		1	1			2	1
ドイツ	1		1										2	
マレーシア							1						1	
シンガポール														
インド														
アゼルバイジャン							1						1	
モンゴル							1						1	
ブラジル														
イギリス			1	1									1	1
スペイン			1										1	
チェコ			1										1	
アメリカ							1						1	
ベルギー									1				1	
合計	84	22	12	5	9	3	44	24	2	1			151	55

(学部〔研究科〕別)

(単位：人)

学部（研究科）	学部留学生		交換留学生		外国人研究生		大学院留学生		大学院研究生		大学院研究留学生		合計	
	全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数
人文	10	2	6	3	1	1	6	5	1				24	11
法	3		5	2			3	1					11	3
経済	5	3			4	1	11	6					20	10
商	49	13	1		1	1	13	12					64	26
理	2	2					1						3	2
工	15	2			3		8		1	1			27	3
医							1						1	
薬														
スポーツ科							1						1	
合計	84	22	12	5	9	3	44	24	2	1			151	55

(単位：人)
R2.10.1現在

(学部留学生・年次別)

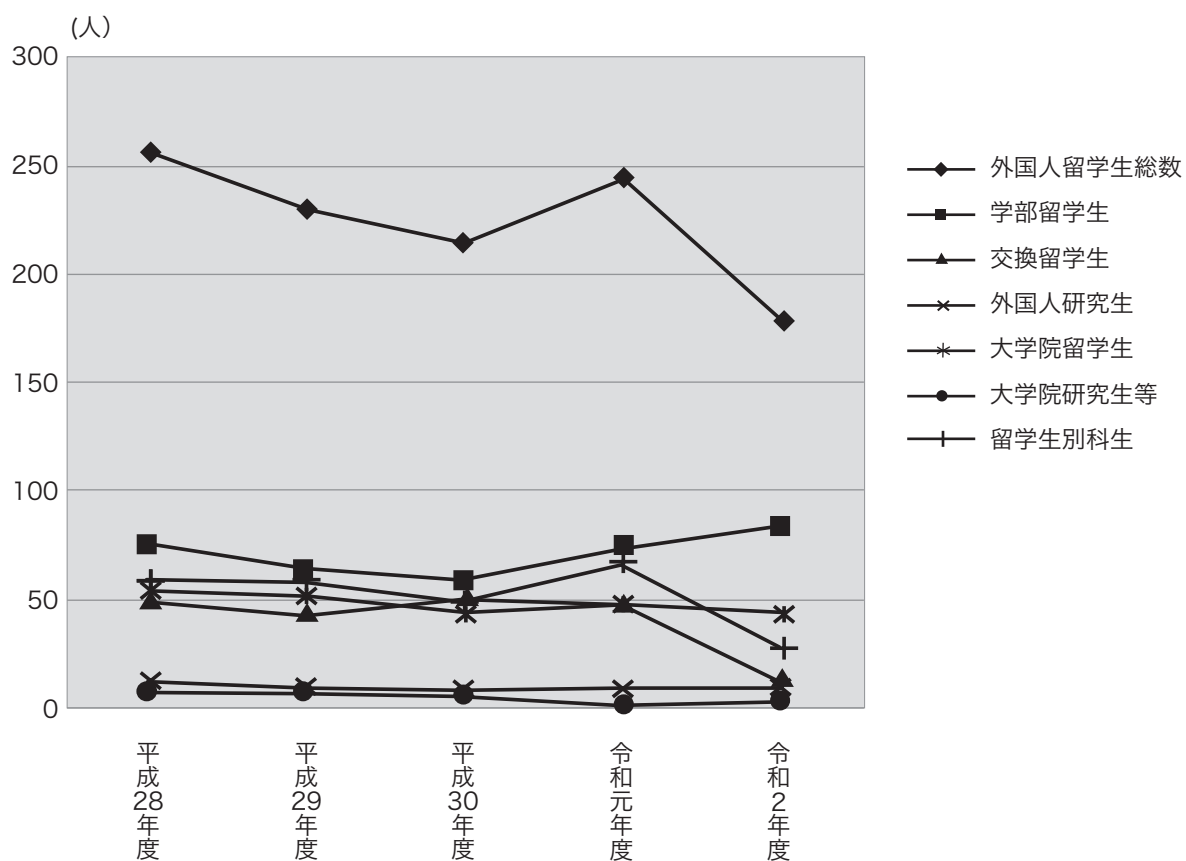
学部	学科	在籍学生総数		在籍学生数					
				第1年次		第2年次		第3年次	
		全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数	全体	女子内数
人文	文化	4		1		1		2	
	歴史	1							1
	日本語・日本語	1						1	
	教育・臨床心理	3	2			1	1	1	
	英語								
	ドイツ語								
	フランス語								
法	東アジア地域言語	1				1			
	小計	10	2	1		3	1	3	
	法律	3		1		1		1	
	経営法								
	小計	3		1		1		1	
	経済	5	3	2	1	1		1	1
	産業経済								
商	小計	5	3	2	1	1		1	1
	商	19	5	7	1	5	2	2	1
	経営	24	7	8	2	9	1	6	1
	貿易	6	1	3	1	2			
	小計	49	13	18	4	16	3	8	1
	応用数								
	物理科								
理	化学	1	1					1	
	地球圏科	1	1					1	
	小計	2	2					2	
	機械工	4		3		1			
	電気工	1		1					
	電子情報工	2		1				1	
	化学システム工	1		1					
工	社会デザイン工	1	1			1	1		
	建築	6	1	1	1	4		1	
	小計	15	2	7	1	6	1	2	
	医								
	薬								
	スポーツ科								
	健康運動科								
スポーツ科	小計								
	合計	84	22	29	6	27	6	16	3

工学部社会デザイン工学科18台1人は2年次に含む。
理学部地球圏科学科17台1人は3年次に含む。

5. 外国人留学生在籍数過年度実績

(単位：人)
R2. 10. 1現在

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
外国人留学生総数	257	231	215	245	179
学部留学生	76	64	59	74	84
交換留学生	49	43	50	47	12
外国人研究生	12	9	8	9	9
大学院留学生	54	51	44	48	44
大学院研究生等	7	6	5	1	2
留学生別科生	59	58	49	66	28



6. 学部留学生

●国際センターが実施している学部留学生への生活支援

1. 授業料減免について

在留資格「留学」を有する私費外国人留学生を対象に、毎年、申請のあった留学生について、出席日数や学業成績などの審査を行い、学費納入金のうち授業料の30%を減免します。学費は通常前期、後期の2回に分けて納入しますが、減免が決定されると後期で納入する金額を減額します。

※ 授業料追加減免

1年次生は、学部留学生入学試験において成績優秀な者、2年次生以上は、前年度の成績が特に優秀な者について、毎年選考の上、さらに授業料の20%の追加減免（医学部医学科の留学生については薬学部の授業料相当額）をします。令和元年度は1年次生は5人、2年次生以上は5人が選ばれました。

2. 奨学金制度について

①福岡大学私費外国人留学生奨学金（平成15年度設立）

学部留学生を対象に学業成績優秀であり経済的負担力に乏しい者に対し、大学が奨学金を給付し、優秀な留学生の育成と勉学意欲の高揚を図ることを目的としています。

- ・給付月額 20,000円
- ・給付期間 1年間
- ・給付人数 25人以内（1年次生15人以内、2年次生から4年次生（薬学部及び医学部医学科は6年次生）まで10人程度）

②福岡大学アジア特定地域学部留学生学修奨励費（平成18年度設立）

学部留学生を対象に東アジアを除くアジア諸国の国籍を有する私費外国人留学生に大学が経済支援することにより、将来日本とのかかわりの中で国際的に活躍する人材を育成することを目的としています。令和元年度は、ベトナム1人が採用されました。

- ・給付月額 20,000円
- ・給付期間 1年間
- ・給付人数 1人（令和元年度実績）

③学外の各種団体奨学金には次のような奨学金があり、大学から推薦をしました。（令和2年度 実績）

奨 学 金 名	支給月額（円）	支給期間	採用人数
福岡大学私費外国人留学生奨学金	20,000	1年間	25
福岡大学アジア特定地域学部留学生学習奨励費	20,000	1年間	3
(独) 日本学生支援機構 学習奨励費	48,000	1年間	0
		6ヶ月	0
(公財) 佐藤陽国際奨学財団 Asia 留学生奨学制度私費留学生奨学金	120,000	2年間	0
(公財) ロータリー米山記念奨学会奨学金	100,000	1～2年間	0
(公財) 平和中島財団 外国人留学生奨学金	100,000	1年間	0
(公財) 日本国際教育支援協会 大成建設外国人留学生奨学金	150,000	1～4年間	0
(公財) ヨネックススポーツ振興財団	50,000	1年間	0
(一財) 田坂育英会基金奨学金	50,000	1年間	0
(一財) 共立国際交流奨学財団奨学金	100,000	2年間	0
(株) 共立メンテナンス奨学基金奨学金	60,000	1年間	1
(財) 安田奨学財団奨学金	100,000	3年間	0
(公財) アシュラン国際奨学財団奨学金	100,000	2年間	0
(公財) S G H財団奨学金	100,000	2年間	0
(公財) 潤上育英奨学金	50,000	2年間	0

奨 学 金 名	支給月額（円）	支給期間	採用人数
（公財）九配記念育英会奨学金	20,000	4 年間	0
（財）安田奨学財団奨学金スポーツ枠	100,000	3 年間	0
（一財）金澤記念育英財団奨学金	30,000	2 年間	1
（公財）朝鮮奨学会奨学金	25,000	1 年間	0
（公財）吉本章治奨学会	30,000	2 年間	0
（公財）日本国際教育支援協会 JEES 日本語教育普及奨学金（日能）	50,000	2 年間	0
（公財）日本国際教育支援協会 JEES 日本語教育普及奨学金（修学）	30,000	2 年間	0
（公財）吉川育英会奨学金	50,000	2 年間	1
（公財）大和記念育英財団	20,000	2 年間	0
（公財）福岡市国際財団奨学金	50,000	4 年間	4
（公財）福岡国際交流センター 福岡アジア留学生里親奨学金	20,000	1 年間	1
（公財）福岡よかトピア国際交流財団 八頭司留学生育英奨学金	年額 50 万円	1 年間	0
（公財）福岡よかトピア国際交流財団 太田シヅミ留学生育英奨学金	年額 30 万円	1 年間	0
合 計			36

○各種奨学金全ての過去5ヵ年の給付実績

R2. 10. 1現在

年 度	学 部		
	私費留学生数（人）	給付者数（人）	給付率（％）
平成28	72	12	16.7
29	60	11	18.3
30	59	6	10.2
令和元	74	31	41.8
2	84	36	42.8

注）国費、非正規生を除く。
在留資格が留学の者。

【参考】

年 度	大 学 院		
	私費留学生数（人）	給付者数（人）	給付率（％）
平成28	58	12	20.7
29	56	12	21.4
30	51	25	49.0
令和元	53	20	37.7
2	47	20	42.5

注）国費を除く。
非正規生を含む。
在留資格が留学の者。

3. 留学生向け講演会

4月に留学生を対象にメンタルヘルスケアの一環として「異文化ストレスとそのつきあい方」をテーマに専門家を招いて新入生オリエンテーションの中で実施します。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、中止となりました。

4. 留学生懇談会（年2回）

新入生については、4月に関係教職員との親睦を深める機会として新入生歓迎会を、また12月には国際センター運営委員、指導教授や関係教職員を交えての外国人留学生懇談会を実施し、職員との懇談および留学生相互の親睦を図っています。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、中止となりました。

5. 留学生研修旅行について

この研修旅行は、留学生相互の親睦をはかるとともに日本の自然、文化、歴史を学ぶことを目的として年1回（10月）実施しているバス旅行です。ボランティアとして日本人学生も参加するため、留学生と日本人学生が交流を深める機会となっています。日帰り、研修先は、大分、熊本、長崎などです。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、中止となりました。

6. 住居・アルバイトについて

- ・住居については、国際交流会館の管理運営を学生課と連携し対応しています。
- ・アルバイトについては、留学生の資格外活動許可について助言及び指導を行っています。

7. 留学生会（愛好会）への助言及び指導

留学生会は、留学生相互の交流のみならず、日本人学生、地域住民との相互理解と親睦を深める活動を行っています。国際センター事務室では留学生会の活動が活発になるようにアドバイスを行っています。

8. 留学生の事件・事故の対応

学部留学生の事件・事故については、学生課や学部事務室と連携し対応しています。

9. 学部留学生ガイドブック

学部留学生に必要な情報を集めたものです。在留資格に関する手続きのこと、アルバイトのこと、奨学金のこと、病気やけがをしたときの医療費補助制度のことなど、留学生が知っておかなければならないことや留学生がよく疑問に思うことなどについてわかりやすく説明しています（学部留学生全員に毎年配布）。

10. その他の相談

ビザの手続や資格外活動等について窓口で相談を受けています。

11. 科目登録について

新入生を対象とした本学留学生会学生による、学生生活、科目登録などのアドバイスを4月初旬に行います。

12. 国際交流会館入居者の交流会

国際交流会館に入居する交換留学生、日本人学生の交流会として、4月に新入生歓迎会、9月に交換留学生の歓迎会、1月及び7月に交換留学生の歓送会を実施します。

13. 国際交流会館と地域住民との交歓会

国際交流会館入居者及び関係教職員と片江地区住民の方々との交流を通して、大学と地域住民との良好な関係を築くことを目的とした交歓会を12月（隔年）に実施しています。

14. 国際交流会館の学生委員の指導及び助言

国際交流会館に入居する学生委員（役員）を通じて、会館事務室、学生課と連携を取りながら、会館での生活について指導や助言を行っています。

●外国人留学生授業料減免に関する取扱要領

(平成3年4月1日実施)

改正 平成4年4月1日

改正 平成6年4月1日

改正 平成13年4月1日

改正 平成14年4月1日

改正 平成15年4月1日

1. 目的

本学の外国人留学生（大学院を含む。）で学業を継続する意思及び能力を有しながら経済的負担力に乏しい者に対し、授業料を減免し、その負担を軽減することを目的とする。

2. 対象となる外国人留学生

本学の正規の課程及び大学院の課程に在籍する外国人の学生で、かつ、出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）別表第一に定める在留資格「留学」に該当する者及び経過措置としての在留資格「就学」などを有する者で、国費外国人留学制度実施要項（昭和29年3月31日文部大臣裁定）に定める国費外国人留学生並びに外国政府の派遣する留学生以外の者を対象とする。ただし、次に該当する者は対象から除外する。

- (1) 出席日数等の履修状況により、学業継続の意思がないと認められる者。
- (2) 学業成績が不振で、成業の見込みがないと認められる者。
- (3) 経済的に困難な状況と認められない者。
- (4) 留年した者。（ただし、病気等やむを得ない事由により留年した者は除く。）
- (5) 休学中の者。

3. 授業料減免の内容

該当する学部及び大学院研究科の授業料に30%を乗じて得た額（100円未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。）を限度として減免する。ただし、第1年次生の学部留学生のうち入学試験の成績が特に優秀な者及び第2年次生以上の学部留学生のうち前年度の学業成績が特に優秀な者については、予算の範囲内で毎年選考のうえ、更に授業料に20%を乗じて得た額（医学部医学科の留学生については薬学部の授業料に20%を乗じて得た額）を減免することができる。

4. 授業料減免の申請

授業料の減免を受けようとする者は、所定の期日までに学部にあつては国際センター事務室長、大学院にあつては大学院事務課長を経て学長に願い出なければならない。

5. 授業料減免の決定

申請のあった者について、所定の審査を行い学長がこれを決定する。

6. 授業料減免後の退学者の取扱い

所定の審査を経て授業料減免が決定した後に退学する者については、本学は減免後の授業料を徴収するものとし、減免額の追徴は行わない。

7. 所管課

外国人留学生授業料減免に関する所管課（室）は、国際センター事務室とする。

8. その他

この要領に定めるもののほか、外国人留学生授業料減免の実施に関し必要な事項は、別に定める。

9. 実施日

この要領は、平成15年4月1日から実施する。

●留学生との懇談会参加状況

実施年月日	対象者（人数）			参加者（人数）			参加率（％）		
	全体	上段 下段	留学生 職員等	全体	上段 下段	留学生 職員等	全体	上段 下段	留学生 職員等
平成 27. 4. 14（火）	130		65 65	75		53 22	57.7		81.5 33.8
〃 27. 12. 3（木）	293		221 72	73		54 19	24.9		24.4 26.4
〃 28. 4. 5（火）	152		91 61	73		57 16	48.0		62.6 26.2
〃 28. 12. 6（火）	256		190 66	65		49 16	25.4		25.8 24.2
〃 29. 4. 4（火）	120		69 51	72		52 20	60.0		75.4 39.2
〃 29. 12. 5（火）	232		166 66	60		43 17	25.9		25.9 25.8
〃 30. 4. 4（火）	123		70 53	81		61 20	65.9		87.1 37.7
〃 30. 12. 4（火）	223		159 64	99		80 19	44.4		50.3 29.7
〃 31. 4. 4（木）	161		98 63	110		90 20	68.3		91.8 31.7
令和 1. 12. 3（火）	244		181 63	98		81 17	40.2		44.8 27.0
新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、R2年度の懇談会開催中止									

●留学生研修旅行年度別状況

年度	場所	月 日	参加者数				バス 台数	引率者	
			留学生（参加率）	日本人学生	引率者	計		教育職員	事務職員
平成 25	北九州 (スペースワールド)	10/12（土）	91/284 (32.0%)	7	2	100	3	岡野ひさの（人文）	横山室員
〃 26	長崎 (ハウステンボス)	10/ 4（土）	94/263 (35.7%)	12	2	108	3	重富純子（人文）	榮嶋室員
〃 27	大分 (城島高原パーク)	10/ 3（土）	73/223 (32.7%)	6	2	81	3	ウエストン、ステ ファニー・A（法）	井手室長補佐
〃 28	熊本 (グリーンランド)	10/15（土）	64/191 (33.5%)	4	2	70	2	田代安彦（商）	榮嶋室員
〃 29	北九州 (スペースワールド)	10/21（土）	112/189 (59.3%)	37	6	155	4	三島健司（工） 鄭磊（留学生別科）	白石調査役、飯窪課員、 榮嶋室員、渡邊室員
〃 30	長崎 (ハウステンボス)	10/13（土）	126/211 (59.8%)	44	6	176	4	岡野ひさの（人文） 葛西妙子（留学生別科）	白石調査役、山口室員、 田中課員、鐘ヶ江室員
令和 元	大分 (城島高原パーク)	10/ 5（土）	126/188 (67.2%)	39	5	170	4	石井和仁（人文） 鄭磊（留学生別科）	宮崎室員、 田中課員、金室員
令和2年度の留学生研修旅行は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止となりました。									

平成21年度～平成24年度及び平成28年度～平成30年度の定員は84名、平成25年度～平成27年度の定員は126名であった。
平成29年度～令和元年度は学生課、留学生別科事務室との合同で行った。

●留学生と地域との交流会実績

実施年月日	交流先	参加留学生	留学生内訳
2020. 11. 7 (土)	附属大濠高校1年生 (国際研修)	15人	学部留学生 (中国8人、韓国3人、ベトナム3人、インドネシア1人)

7. 学部留学生 選抜

●学部留学生選抜過年度実績 (学部学科別)

(単位：人)

R3.4.1

学部学科		令和3年度			令和2年度			平成31年度			平成30年度			平成29年度			平成28年度		
		志	合	入	志	合	入	志	合	入	志	合	入	志	合	入	志	合	入
人 文	文化	2			4	1	1	3	2	2	3	1	1	2	1		1	1	1
	歴史													2	1	1			
	日本語日本文				1			3			2	1	1	1	1	1	1	1	
	教育・臨床心理	1			1			6	1	1	2	1	1	4	2	2	2	1	
	英語				1			1											
	ドイツ語																1	1	1
	フランス語										1						2	1	1
法	東アジア地域言語	2			1			2	1	1				1	1	1			
	法律	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1		
経 済	経営法	2	2	2															
	経済	2	2	2	3	2	2	1	1	1				1	1	1	1	1	1
商	産業経済				1														
	商	4	1	1	13	9	7	6	6	6	4	3	2	6	4	4	13	6	5
	経営	14	8	6	15	9	8	17	9	9	17	9	6	7	4	1	14	6	6
	貿易	1	1		4	3	3	2	2	2	2	1		3			4	2	2
理	応用数																		
	物理科																		
	化	1	1								1	1	1						
工	地球圏科	1									2	2	1	2	2	1	1	1	1
	機械工	3	2	2	4	4	3	1	1	1							1		
	電気工	1			1	1	1	1			1	1	1				1	1	1
	電子情報工	2	2	2	2	1	1	1			2	2	1	1	1		2	2	
	化学システム工				1	1	1							2			1		
	社会デザイン工	1	1	1	3						1	1	1				1		
医 薬	建築	3	1	1	1	1	1	5	4	4	1	1	1	1	1	1			
	医	1			2			2			3	1		3	1		1		
ス ポ ー ツ 科	薬				3			2			2			1			2		
	スポーツ科										2								
	健康運動科																		
	合 計	44	23	18	62	33	29	54	28	28	47	26	17	38	21	14	50	24	19

※志 = 志願者 合 = 合格者 入 = 入学者

●学部留学生選抜過年度実績 (国・地域別)

(単位：人)

国・地域	令和3年度			令和2年度			平成31年度			平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	志	合	入	志	合	入	志	合	入	志	合	入	志	合	入	志	合	入
中国	33	20	15	32	18	15	36	20	20	34	20	13	23	12	7	41	19	14
韓国	1			23	11	10	11	6	6	6	1	1	5	4	3	4	2	2
台湾	3			1			5	2	2	2	1	1	2	1	1	1		
香港	1																	
マレーシア																1	1	1
ベトナム	5	2	2	5	3	3	1			1	1	1	2	1	1	1	1	1
イギリス																1	1	1
インド	1	1	1															
インドネシア				1	1	1				2	2	1	1					
ネパール													1	1				
モンゴル													1					
ドイツ										1	1		1	1	1			
フランス													1	1	1			
アメリカ							1						1			1		
カナダ										1								
合 計	44	23	18	62	33	29	54	28	28	47	26	17	38	21	14	50	24	19

* 志 = 志願者 合 = 合格者 入 = 入学者

●日本語学校等別入試状況

R3. 4. 1

学校等名	志願者数A (人)			合格者数B (人)			入学者数C (人)			合格率B / A (%)			入学率C / B (%)		
	R3年度	R2年度	31年度	R3年度	R2年度	31年度	R3年度	R2年度	31年度	R3年度	R2年度	31年度	R3年度	R2年度	31年度
《日本語学校》															
I S I ランゲージスクール	1			1			1			100.0			100.0		
アジア・アフリカ語学院	1		1							0.0		0.0			
アジア日本語学院	1		1			1			1	0.0		100.0			100.0
愛和外語学院	1		1			1			1	0.0		100.0			100.0
いろは日本語学校	1	1	3	1	1	2	1	1	2	100.0	100.0	66.7	100.0	100.0	100.0
北九州Y M C A 日本語学校	1									0.0					
九州英数学館大学進学科	1	10	6	1	4	5		2	5	100.0	40.0	83.3	0.0	50.0	100.0
九州英数学館国際言語学院	11	6	8	8	5	7	6	5	7	72.7	83.3	87.5	75.0	100.0	100.0
九州外国語学院	2		2			1			1	0.0		50.0			100.0
九州言語教育学院		2	2		2	1		2	1		100.0	50.0		100.0	100.0
九州国際教育学院 (旧 鷗州日本語学校)			2			1			1			50.0			100.0
九州日語学院			2			1			1			50.0			100.0
進学塾ビッグバン		1									0.0				
東京言語教育学院		1			1			1			100.0			100.0	
東京中央日本語学院			1									0.0			
東京ベイサイド日本語学校	1			1			1			100.0			100.0		
京進ランゲージアカデミー	1									0.0					
東アジア日本語学校		1	1			1			1		0.0	100.0			100.0
春暉国際学院			1									0.0			
メリック日本語学校			1									0.0			
NILS	1									0.0					
エール学園	1									0.0					
ダイナミックビジネスカレッジ	1									0.0					
日工学院 (韓国)			3			1			1			33.3			100.0
Ilgong Academy (韓国)		1	1								0.0	0.0			
SJ 語学院 (韓国)			1									0.0			
TANPOPO 日本語学院 (韓国)			1			1			1			100.0			100.0
ARC 日本語学校		1									0.0				
ECC 外語専門学校		1									0.0				
EJU 実践外国語教育学院 (韓国)		1			1			1			100.0			100.0	
ELA 語学院 (韓国)		1									0.0				
ソンドEJU 日本語学院 (韓国)		1			1			1			100.0			100.0	
一其一会塾 (韓国)		2			1			1			50.0			100.0	
国際アカデミー日本語学院		1			1						100.0			0.0	
山本日語 (中国)		1									0.0				
時事 PLUS 日本語学院 (韓国)		1			1			1			100.0			100.0	
時事日本語学院 (韓国)		3			1						33.3			0.0	
水原時事語学院 (韓国)		1			1			1			100.0			100.0	
赤門会日本語学校		1									0.0				
千駄ヶ谷日本語学校	1	1			1			1		0.0	100.0			100.0	
日語チング日本語学校 (韓国)		1									0.0				
富士インターナショナルアカデミー	1	2		1						100.0	0.0		0.0		
《専門学校等》															
麻生外語観光&製菓専門学校		2	1		2			2			100.0	0.0		100.0	
麻生情報ビジネス専門学校		1									0.0				
麻生工科自動車大学校			1									0.0			
久留米ゼミナール	1	3		1	2		1	2		100.0	66.7		100.0	100.0	
専門学校岡山ビジネスカレッジ	1									0.0					
福岡Y M C A 国際ホテル・福祉専門学校		2	5		2	2		2	2		100.0	40.0		100.0	100.0
福岡 YMCA 日本語学校		1			1			1			100.0			100.0	
福岡外語専門学校	7		2	3		1	3		1	42.9		50.0	100.0		
久留米大学留学生別科	1			1			1			100.0			100.0		
拓殖大学留学生別科		1									0.0				
神戸 YMCA 学院専門学校			1									0.0			
福岡大学留学生別科	1	2		1	1		1	1		100.0	50.0		100.0	100.0	
京都両洋高等学校			1									0.0			

東大阪大学柏原高等学校		1		1		1		100.0		100.0
日章学園九州国際高等学校	5	1	1	4		3		80.0	0.0	75.0
その他（所属なし）		6	3	3	2	3	2	50.0	66.7	100.0
その他〔海外高校等〕	1							0.0		
合 計	44	62	53	23	33	28	18	52.3	53.2	78.3

●令和２年度外国人留学生対象進学説明会

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度の実施は中止となりました。

●令和２年度オープンキャンパス時の説明会

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度の実施は中止となりました。

●令和２(2020)年度日本留学フェア

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度の実施は中止となりました。

8. 留学に関する プログラム

●留学フェア2020、個別相談会

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度は中止となりました。

●令和2年度 海外留学プログラム説明会（オープンキャンパス）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度は中止となりました。

●令和2年度 後期募集国際センター留学プログラム説明会

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度は中止となりました。

●令和2年度 国際センター教員による留学相談

日 時：毎週月・水曜日 12:10～13:30

場 所：Webex によるオンライン相談

相 談 員：佐々木 有紀、新田 よしみ

年間相談者数：60 人

9. 留学フェア 2020

●アンケート集計結果

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度は中止となりました。

10. 海外研修・ 語学研修

● (派遣) 2020年度海外研修(蔚山大学校) 日程

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度派遣は中止となりました。

● (派遣) 2020年度海外研修 (蔚山大学校) 応募者数及び派遣者数

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度派遣は中止となりました。

● (派遣) 2020年度海外研修(ウオッシュュバン大学) 日程

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度派遣は中止となりました。

● (派遣) 2020年度海外研修(ウオッシュュバン大学) 応募者数及び派遣者数

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度派遣は中止となりました。

● (派遣) 2020年度海外研修(グリフィス大学) 日程

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度派遣は中止となりました。

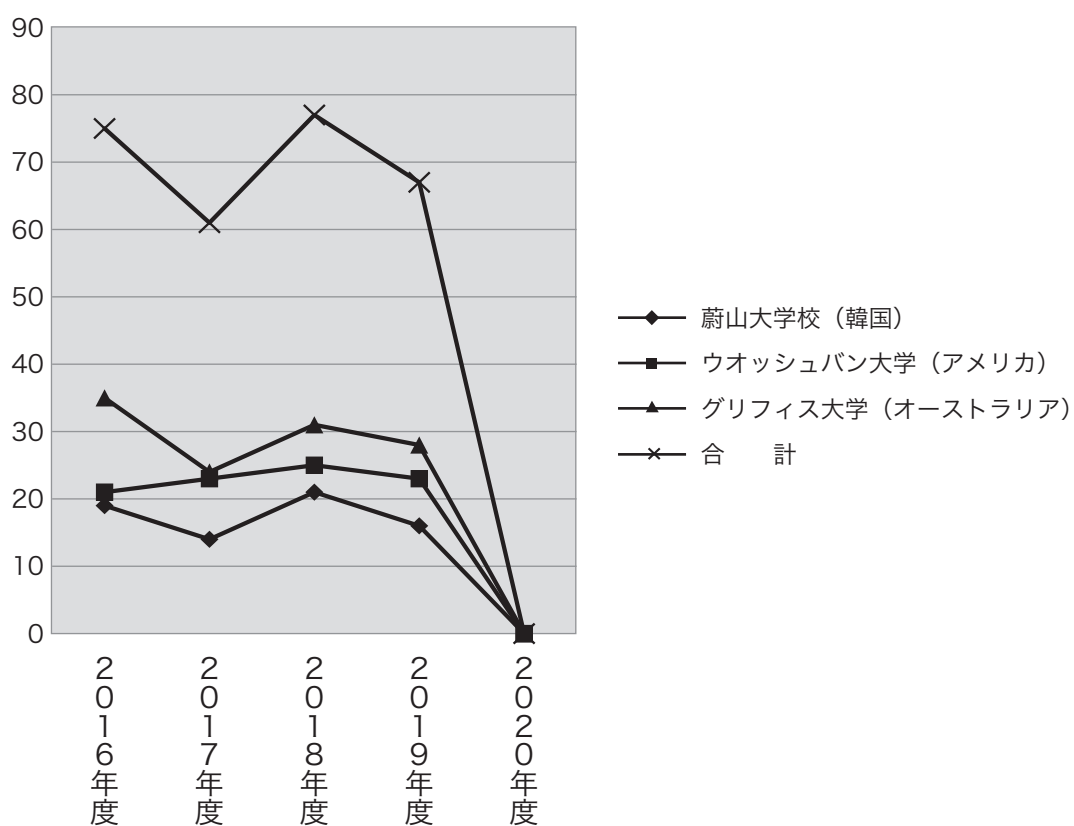
● (派遣) 2020年度海外研修(グリフィス大学) 応募者数及び派遣者数

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度派遣は中止となりました。

● (派遣) 海外研修応募者数過年度実績

(単位：人)

大学名	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
蔚山大学校（韓国）	19	14	21	16	0
ウオッシュバン大学（アメリカ）	21	23	25	23	0
グリフィス大学（オーストラリア）	35	24	31	28	0
合 計	75	61	77	67	0



新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度派遣は中止となりました。

● (派遣) 2020年度海外夏期英語研修(ニューカッスル大学) 参加者数

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度派遣は中止となりました。

● (派遣) 2020年度海外夏期英語研修(ニューカッスル大学) 日程

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度派遣は中止となりました。

● (派遣) 2020年度海外春期中国語研修(揚州大学派遣) 参加者数

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度派遣は中止となりました。

● (派遣) 2020年度海外春期中国語研修(揚州大学) 日程

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度派遣は中止となりました。

11. 交換留学

● (受入れ) 令和2年度交換留学生名簿

【新型コロナウイルスの影響で、令和2年4月～8月の受入れ実績なし。】

受入期間：令和2年9月1日～令和3年8月6日【7名】

令和2年9月1日～令和3年1月31日【2名】※

協定校名	学生氏名	所属学部	国・地域	性別
ニューカッスル大学	Jiri HEJDA ヘイダ ユイリ ※	商	チェコ	男
リーズ大学	Amber SUTCLIFFE サットクリフ アンバー	人文	イギリス	女
	Xinyuan LUO ルオ シンユアン	人文	中国	男
リヨン政治学院	Vincent AUBIN オビン バンサン	法	フランス	男
	Pierre VUILLERMOZ ヴリレモ ピエール	法	フランス	男
	Clemence CASSARD カサル クレマンズ	法	フランス	女
	Robin FOURNIER フルニエ ロビン	法	フランス	男
	Charlotte HYGOUNENC ヒグーヌコ シャーロット	法	フランス	女
セビージャ大学	Andreu BALLESTER RIPOLL アンドレウ バジェステル リポル ※	人文	スペイン	男

● (受入れ) 交換留学生過年度実績

(単位：人)

協定校名 (国・地域)	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
ニューカッスル大学 (イギリス)	0	1	1	1	1
リーズ大学 (イギリス)	2	1	2	1	2
ジョージア工科大学 (アメリカ)	(注 1)	(注 1)	(注 1)	(注 1)	(注 1)
グリフィス大学 (オーストラリア)	0	0	0	0	0
華東師範大学 (中国)	1	1	0	1	0
揚州大学 (中国)	4	2	1	3	0
広州大学 (中国)	1	2	2	2	0
煙台大学 (中国)	2	1	1	2	0
中央財経大学 (中国)	2	1	2	2	0
ハルビン師範大学 (中国)	0	0	0	0	0
ハルビン理工大學 (中国)	2	2	1	1	0
西安交通大学 (中国)	2	0	0	2	0
黒龍江大学 (中国)	2	1	0	1	0
蔚山大学校 (韓国)	1	1	1	1	0
梨花女子大学校 (韓国)	0	0	0	0	0
高麗大学校 (韓国)	0	0	0	1	0
東義大学校 (韓国)	1	1	1	1	0
釜山大学校 (韓国)	2	2	2	3	0
仁川大学校 (韓国)	5	3	4	5	0
東亜大学校 (韓国)	2	1	2	2	0
釜慶大学校 (韓国)	2	2	2	2	0
東国大学校 (韓国)	3	2	1	1	0
啓明大学校 (韓国)	2	2	2	3	0
国民大学校 (韓国)	5	2	2	3	0
慶南大学校 (韓国)				1	0
慶北大学校 (韓国)				3	0
輔仁大学 (台湾)	2	2	2	2	0
国立高雄大学 (台湾)	1	1	0	1	0
パジャジャラン大学 (インドネシア)	0	1	0	0	0
連邦立サンタ・カタリナ大学 (ブラジル)	0	0	1	0	0
リヨン政治学院 (フランス)	0	2	3	2	5
セルジー・ポントワーズ大学 (フランス)	1	1	0	3	0
リエージュ大学 (ベルギー)	2	1	2	1	0
タンペレ大学 (フィンランド)	2	1	0	2	0
ダナン大学 (ベトナム)	2	0	2	0	0
ハノイ大学 (ベトナム)	2	2	2	1	0
セビージャ大学 (スペイン)			2	0	1
セントラル・ランカシャー大学 (イギリス)			1	0	0
合 計	51	39	39	54	9 (注 2)

(注1) 平成28年度からのジョージア工科大学交換留学については、先方の大学より交換留学一時中断の申し入れがあったため、派遣受入中止となっている。

(注2) 令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、前期の受入学生実績無し。後期の受入学生9人については、全員渡日せずに遠隔授業を受講した。

● (受入れ) 交換留学生過年度実績 (所属学部別)

(単位：人)

所属学部	年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
人文		44 (UL 1、CU 1、FU 2、UU 1、DU 1、YU 4、GU 1、PU 2、DA 1、UI 4、YA 2、UT 2、PK 2、CP 1、FE 2、DG 3、HS 2、KM 2、XJ 2、HU 2、DN 2、HN 2、LI 2)	28 (NU 1、UL 1、CU 1、FU 2、DU 1、YU 2、GU 2、PU 2、UI 1、YA 1、UT 1、CP 1、FE 1、PJ 1、DG 2、HS 1、KM 2、HU 1、KK 1、HN 2、LI 1)	29 (NU 1、UL 2、CL 1、US 2、LI 2、GU 2、YU 1、YA 1、KK 2、HN 2、DN 2、UI 4、DA 1、PK 2、KM 1、DG 1、FU 2)	37 (NU 1、UL 1、LI 1、UT 2、GU 2、YU 3、HU 1、YA 2、FE 2、XJ 2、HS 1、FU 1、KN 2、KU 1、DA 1、PU 3、UU 1、DU 1、UI 4、PK 1、KM 2、KK 1、HN 1)	3 (UL 2、US 1)
法		1 (UL)	2 (PO)	4 (PO 3、SC 1)	3 (PO 2、PK 1)	5 (PO)
経済			1 (PK)	1 (FE)	1 (KM)	
商		3 (DA 1、UI 1、KK 1)	4 (DA 1、UI 1、PK 1、HN 1)	3 (DA 1、FE 1、HN 1)	7 (CP 3、CU 1、KK 1 DA 1、KN 1)	1 (NU)
理		2 (KK 2)	2 (UU 1、UK 1)	1 (PU)	1 (KK)	
工		3 (UK 1、KK 2)	2 (UI 1、KK 1)	4 (UU 1、PU 1 DU 1 KM 1)	5 (KR 1、UI 1、DG 1、UK 1、FU 1)	
スポーツ科						
合計		40	53	39	54	9

() は受入れ学生の内訳

* NU = ニュースカスル大学 UL = リーズ大学 GT = ジョージア工科大学

GR = グリフィス大学 CU = 華東師範大学 FU = 輔仁大学 UU = 蔚山大學校

EU = 梨花女子大學校 SC = 連邦立サンタ・カタリナ大学 KR = 高麗大學校

DU = 東義大學校 YU = 揚州大学 GU = 広州大学 PU = 釜山大學校

DA = 東亜大學校 UI = 仁川大學校 YA = 烟台大学 PO = リヨン政治学院

UT = タンペレ大学 UK = 国立高雄大学 PK = 釜慶大學校

KN = 慶北大學校 KU = 慶南大學校

CP = セルジー・ポントワーズ大学 FE = 中央財經大学 HN = ハルビン師範大学

PJ = パジャジャラン大学 DG = 東国大學校 HS = ハルビン理工大學

KM = 啓明大學校 XJ = 西安交通大学 HU = 黒龍江大学 KK = 国民大學校

DN = ダナン大学 HN = ハノイ大学 LI = リエージュ大学

US = セビージャ大学 CL = セントラル・ランカシャー大学

●（派遣）令和２年度交換留学生派遣大学別一覧

派遣期間	派遣先大学	学部学科名	年次	性別
令和2年8月 ～令和3年7月	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度の派遣は中止となりました。			
令和3年2月 ～令和4年1月				

計 0人

● (派遣) 交換留学生過年度実績

(単位：人)

協定校名 (国・地域)	開始年度	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
		応募人数	派遣人数	応募人数	派遣人数	応募人数	派遣人数	応募人数	派遣人数	応募人数	派遣人数
ニューカッスル大学 (イギリス)	S62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リーズ大学 (イギリス)	H4	0	0	2	2	5	4	1	0	0	0
セントラル・ランカシャー (イギリス)	R1							1	1	0	0
ジョージア工科大学 (アメリカ)	H9	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)
グリフィス大学 (オーストラリア)	H5	0	0	0	0	1	1	(注)	(注)	(注)	(注)
華東師範大学 (中国)	H13	0	0	1	1	3	2	2	0	0	0
揚州大学 (中国)	H18	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0
広州大学 (中国)	H20	0	0	1	1	2	2	1	0	0	0
煙台大学 (中国)	H24	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0
中央財經大学 (中国)	H25	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0
ハルビン理工大學 (中国)	R2									0	0
西安交通大学 (中国)	R2									0	0
蔚山大学校 (韓国)	H13	0	0	2	2※	0	0	0	0	1	0
釜山大学校 (韓国)	H22	2	2	3	2	1	2	1	0	0	0
梨花女子大学校 (韓国)	H14	0	1※	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)	(注)
高麗大学校 (韓国)	H15	4	2	2	2	3	2	1	0	(注)	(注)
東義大学校 (韓国)	H17	0	0	0	2※	0	1※	0	0	0	0
仁川大学校 (韓国)	H23	4	4	6	4	3	5※	5	0	0	0
東亜大学校 (韓国)	H23	1	0	2	2※	1	2※	0	0	1	0
慶熙大学校 (韓国)	H24	0	1※	0	1※	2	2	4	0	1	0
釜慶大学校 (韓国)	H25	2	2	3	2	1	2	0	0	1	0
啓明大学校 (韓国)	H26	1	1	3	2	1	2	1	0	0	0
国民大学校 (韓国)	H27	2	2	6	2	8	2	1	0	3	0
慶北大学校 (韓国)	R1							1	0	0	0
慶南大学校 (韓国)	R1							0	0	0	0
釜山外国語大学校 (韓国)	R1							0	0	0	0
輔仁大学 (台湾)	H14	3	2	2	2	1	1	1	0	4	0
国立高雄大学 (台湾)	H24	1	2※	1	0	1	1	3	0	0	0
連邦立サンタ・カタリナ大学 (ブラジル)	H15	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
リュミエールリヨン第2大学(フランス) (平成 25 年度よりリヨン政治学院)	H17	0	0	2	1	0	0	1	1	0	0
セルジー・パリ大学 (フランス)	H26	5	3	5	2	3	1	3	3	3	0
リエージュ大学 (ベルギー)	H29			0	1※	0	0	1	1	0	0
セビージャ大学 (スペイン)	R1							1	1	2	0
合 計		27	24	42	31	39	36	31	7	16	0

※ 第二～第四希望者も含む

(注) 先方の大学より申し入れがあったため、交換留学派遣を一時中断している。

● (派遣) 交換留学生過年度実績 (学部別)

(単位：人)

学部学科	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
人文	文化史					
	歴史					
	日本語日本文					
	教育・臨床心理					
	英語		2 (UL1, KR1)	4 (UL3, GR1)	2 (CL1, US1)	
	ドイツ語					
東アジア地域言語	フランス語	3 (CP3)	4 (PO1, CP2, LI1)	1 (CP)	4 (PO1, CP2, LI1)	
	20 (UK2人, FU2, EU1, KR2, PU 2, UI 4, KH1, FE1, PK2, KM1, KK2)		24 (YU1, GU1, FU2, UU2, KR1, DU2, PU2, UI4, DA2, KH1, PK2, KM2, KK2)	26 (YU1, CU2, GU2, YA2, FE1, UK1, KR1, DU1, UI4, PU2, DA2, KM2, KK1, KH2, PK2)		
	法律			1 (FU)	1 (CPI)	
	経営法			3 (KR1, KK1, UL1)		
経済	産業経済					
商	商					
	貿易		1 (UL)			
商二部	商					
理	応用数		1 (CU)			
	物理科					
	化学					
	地球圏科					
工	機械工					
	電気工					
	電子情報工					
	化学システム工					
スポーツ科	社会デザイン工					
	建築			1 (UI)		
	スポーツ科	1 (SC)				
	健康運動科					
大学院						
合計		24	32	36	7	0 (新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、派遣中止)

() は派遣先大学

* NU= ニューカッスル大学 UL = リーズ大学 GT= ジョージア工科大学 GR= グリフィス大学 CU = 華東師範大学 YU= 揚州大学 GU= 広州大学 YA= 烟台大学 FU= 輔仁大学 UK= 国立高雄大学 UU= 蔚山大学 EU= 梨花女子大学 KR= 高麗大学 DU= 東義大学 PU= 釜山大学 UI= 仁川大学 DA= 東亜大学 KH= 慶熙大学 PO= リヨン政治学院 LI= リエージュ大学 SC= 連邦立サンタ・カタリナ大学 FE = 中央财经大学 PK= 釜慶大学 KM= 啓明大学 KK= 国民大学 CP= セルジャー・パリ大学 CL= セントラル・ランカシャー大学 US= セビージャ大学 KN= 慶北大学

12. 外国人研究生

● 2020年度外国人研究生名簿

研究期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日
(研究報告書提出完了者)

氏 名	性別	国・地域	受入れ学部	研究内容	指導教育職員
コウ リツコウ HUANG LIHANG	男	中国	経済	企業組織形態と研究開発の研究	万 軍民 経済学部教授
ホウ ガビン PANG HEBIN	男	中国	経済	企業境界の研究	万 軍民 経済学部教授
ヴ ティ フェン VU THI HUYEN	女	ベトナム	経済	日本における起業に関する問題点	阿比留 正弘 経済学部教授
リン ショウウ LIN SHAOYU	男	台湾	工	都市計画および交通計画の視点から見た今後の都市のあり方に関する研究	辰巳 浩 工学部教授

●外国人研究生過年度実績(国・地域別)

(単位：人)

国・地域 \ 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	合計
台湾					1	1
中国	1			1	3	5
ベトナム	1	3	3	5	1	13
合計	2	3	3	6	5	19

13. 外国人研究員

● 2020年度外国人研究員

氏名/現職	性別/国・地域	受入れ 学部・機関	指導教授	研究期間	研究テーマ
Wu Bingye (ウービンイエ) (国江学院、教授)	男/中国	理	成瀬 慶明 教授	2019.8.10 ~ 2020.8.9 (365 日間)	微分幾何学に関する研究
GUILLAUME Bruno Robert Jacques CHEVILLON (ギョームブリュノ ロベール ジャック シェヴィヨン) (ESSEC Business School, Professor)	男/フランス	経済	栗田 高光 教授	2020.3.22 ~ 2020.4.4 (14 日間)	計量経済学
韓 南翼 (ハンナムイク) (済州大学校、教授)	男/韓国	スポーツ科	スボーツ科 青柳 領 教授	2020.3.1 ~ 2020.7.21 (142 日間)	大学生のライフスタイルと健康の日韓比較
Chen Huilun (チェン ホエルン) (北京科技大学、准教授)	男/中国	工	田中 綾子 教授	2020.12.1 ~ 2021.6.30 (212 日間)	有機系重金属キレート剤由来の難分解性有機化合物の生物分解処理に関する研究
Prakasit Sa-Ngiamwibool (プラカシット サニヤインブル) (Khon Kaen University, Lecturer)	男/タイ	医	鍋島 一樹 教授	2020.12.1 ~ 2021.11.30 (365 日間)	Pathological diagnosis and genomic-based ancillary assays in malignant mesothelioma and cholangiocarcinoma

●外国人研究員過年度実績(国籍別)

(単位：人)

国・地域	年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	合 計
アメリカ		2	1				3
アルゼンチン				1	1		2
イギリス		1					1
インド		1					1
インドネシア			3		1		4
ウクライナ							0
ウズベキスタン							0
カナダ				1			1
韓国		3	4	4	7	1	19
ケニア				1			1
コスタリカ		1					1
タイ						1	1
中国		7	5	6	8	2	28
チリ		1					1
ドイツ		2	1	1	1		5
トルコ		1					1
ブラジル				1			1
フランス					1	1	2
ペルー			1				1
ポーランド					1		1
ロシア			1	1	1		3
合計		19	16	16	21	5	77

14. 福岡大学生のための特別授業

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオンラインにて実施。

授業名	参加者数（前期）（人）	参加者数（後期）（人）
実践フランス語	12	5
朝鮮語を伸ばそう（中級レベル）	9	5
歩歩高（中国語講座）	7	11

2020 年度特別授業 前期受講生募集！

国際センターでは、2020 年度前期の特別授業の受講生を募集します。
特別授業とは、基礎的な語学を修得し、さらに語学力のレベルアップを図りたいと考えている本学の学生、留学を予定している学生の留学準備として、または留学帰国後に語学力の維持を図りたい、という中級レベルの方を対象としています。
正規授業ではないため単位認定はありませんが、全 15 回の授業に出席できることを受講条件としています。申し込み期間中であっても、定員に達した時点で締め切ります。締め切りを過ぎた場合は受付をしませんので、申し込み希望者は早めに申し込んでください。また、教室については授業日前までに FU ポータルでお知らせします。
全講座のシラバスは国際センターで配布中です。まずはシラバスをご確認のうえ、申し込みください。

申込期間：2020 年 3 月 9 日（月）～2020 年 4 月 7 日（火）

※申し込みは国際センター（1号館1階）にて受け付けます（先着順）。

① 実践フランス語

授業期間	定員	教材費	担当者
金曜 5限 2020 年 4 月 10 日～2020 年 7 月 17 日	15 名	無料 (テキストは必要ありません)	清水 りえ子
受講資格：(1)～(3)のいずれかが必要です。 (1)「フランス語学科 2 年次生以上」 (2)「フランス語 1・II の成績通知書または成績証明書」 (3)「フランス語検定 4 級以上の合格証明書」			

② 朝鮮語をのぼそう（中級以上）

授業期間	定員	教材費	担当者
火曜 4限 2020 年 4 月 14 日～2020 年 7 月 21 日	15 名	無料 (テキストは必要ありません)	申 晶
受講資格：(1)～(3)のいずれかが必要です。 (1)「朝鮮語 1A-B」の成績通知書または成績証明書 (2)「ハングル能力検定試験 4 級以上の合格証明書」 (3)「韓国語能力試験 (TOPIK) 2 級以上の合格証明書」			

③ 歩歩高 中級中国語

授業期間	定員	教材費	担当者
木曜 5限 2020 年 4 月 16 日～2020 年 7 月 16 日	15 名	有料 (テキスト代として) ※シラバス参照	笠 義雄
受講資格：(1)～(3)のいずれかが必要です。 (1)「中国語 1」の成績通知書または成績証明書 (2)「HSK 4 級以上の合格証明書」 (3)「中国語検定試験 4 級以上の合格証明書」			

国際センター事務局

2020 年度特別授業（後期） 受講生募集！

国際センターでは、2020 年度後期の特別授業の受講生を募集します。交換留学をめざして語学力のレベルアップを図りたい、普段の授業に加えてもう少し語学を勉強したい、という中級レベル以上の方を対象としています（語学能力などについて条件があります）。
正規授業ではないため単位はありません。定員は各 15 人です。申し込みはメールで受け付けます（先着順）。申し込み期間中であっても、定員に達した時点で締め切りますので、受講希望の方は早めにお申し込みください。
全講座のシラバスは募集開始後（メールにて）お取り寄せください。また、教室については後日、FU ポータルでお知らせします。

申込期間：令和 2 年 7 月 6 日（月）～令和 2 年 9 月 9 日（水）

① 実践フランス語

授業期間	定員	教材費	担当者
金曜 5限 令和 2 年 9 月 18 日（金）～令和 3 年 1 月 8 日（金）	15 名	無料 (テキストは必要ありません)	清水 りえ子
申込み時、フランス語 1・II の成績通知（証明書）を提示してください（※前期受講者は提出不要）。 (フランス語学科 2 年次以上、またはフランス語検定試験 4 級以上の合格証明書でも可。)			

② 朝鮮語をのぼそう（中級以上）

授業期間	定員	教材費	担当者
火曜 4限 令和 2 年 9 月 15 日（火）～令和 3 年 1 月 5 日（火）	15 名	無料 (テキストは必要ありません)	申 晶
申込み時に朝鮮語 1・II A の成績通知（証明書）を提示してください。 (ハングル能力検定試験 3 級以上、または韓国語能力試験 (TOPIK) 3 級の合格を証明するものでも可。)			

③ 歩歩高 中級中国語

授業期間	定員	教材費	担当者
水曜 5限 令和 2 年 9 月 17 日（水）～令和 3 年 1 月 7 日（水）	15 名	有料 (シラバス参照)	笠 義雄
申込み時に、中国語 1 の成績通知（証明書）を提示してください（※前期受講者は不要）。 (HSK 4 級以上、または中国語検定試験 4 級以上の合格を証明するものでも可。)			

○交換留学生日本語・日本文化講座「Hakata Tea: Nambō Ryū is not Grand Master tea」

主に欧米圏から受入れる交換留学生を対象に行われる講義に聴講生として参加します。講義はすべて英語で行われるため、日本文化に興味・関心があり、テーマについて英語でディスカッションできる高い英語力をもった本学の学生を対象としています。申込みの際に、TOEIC800 点以上（過去 1 年以内）のスコア表を提示してください。

授業期間	定員	教材費	担当者
水曜 4限 令和 2 年 9 月 16 日（水）～令和 3 年 1 月 6 日（水）	5 名	無料 (テキストは必要ありません)	ティム・クロス

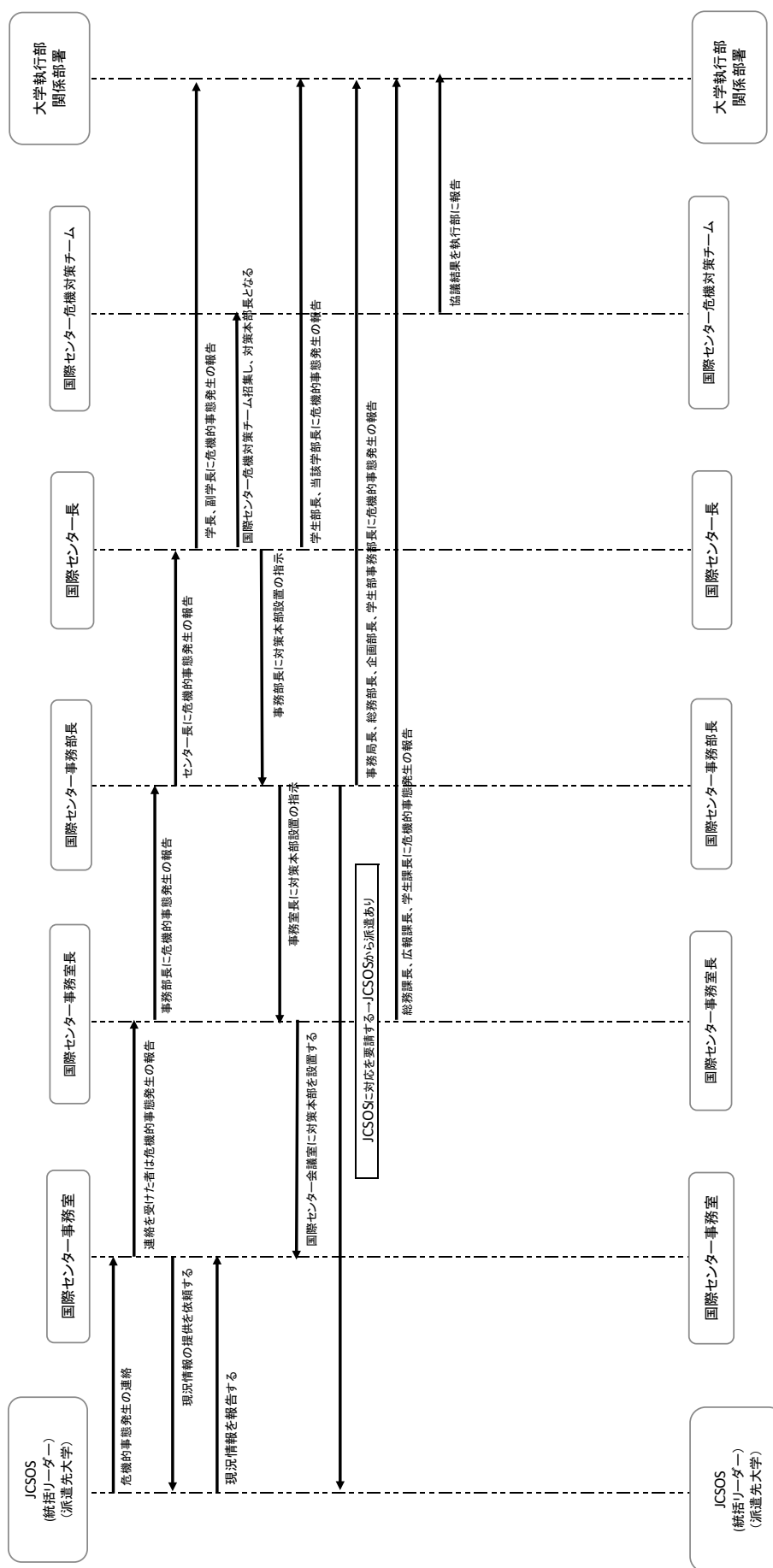
国際センター事務局

15. 令和2年度 国際センター各種行事・委員会記録

- 4月** 1日(水) 外国人研究生オリエンテーション
 9日(木) 第1回国際センター運営委員会
 17日(金) 臨時国際センター運営委員会
 24日(金) 特別授業(フランス語)前期開講
 28日(火) 特別授業(朝鮮語)前期開講
 30日(木) 特別授業(中国語)前期開講
- 5月** 14日(木) 第2回国際センター運営委員会
 25日(月) 福岡大学私費外国人留学生奨学金受付開始(～6月5日)
 福岡大学アジア特定地域学部留学生学修奨励費受付開始(～6月5日)
- 6月** 3日(水) 臨時国際センター運営委員会
 8日(月) 交換留学生(春期派遣)受付開始(～6月18日)
 11日(木) 第3回国際センター運営委員会
 福岡大学私費外国人留学生奨学金、福岡大学アジア特定地域学部留学生学修奨励費選考委員会
- 7月** 9日(木) 第4回国際センター運営委員会
- 8月** 3日(月) 交換留学生(春期派遣・韓国・台湾)面接選考
 21日(金) 臨時国際センター運営委員会
- 9月** 3日(木) 国際化推進会議
 15日(火) 特別授業後期開講
 17日(木) 第5回国際センター運営委員会
- 10月** 8日(木) 第6回国際センター運営委員会
 21日(水) 交換留学生(夏期派遣)受付開始(～10月29日)
- 11月** 5日(木) 2021年度外国人研究生願書受付開始(～13日)
 第7回国際センター運営委員会
 7日(土) 附属大濠高等学校授業派遣(交換留学生・学部留学生)
 21日(土) 令和3年度学部留学生選抜願書受付開始(～12月7日)
 26日(木) 第8回国際センター運営委員会
 27日(水) 交換留学生(次年度夏期派遣・フランス)選考面接
 30日(土) 交換留学生(次年度夏期派遣・スペイン)選考面接
- 12月** 3日(木) 国際交流会館国際交流棟入居期間延長申請者判定会議
 7日(月) 令和3年度学部留学生選抜願書受付締切
 10日(木) ウオッシュバン大学オンライン研修受付開始(～1月8日)
 12日(土) 福岡県留学オンラインフェア(インドネシアへ配信)
 19日(土) 福岡県留学オンラインフェア(インドへ配信)
- 1月** 12日(火) 国際化推進会議
 14日(木) 第9回国際センター運営委員会
- 2月** 2日(火) グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム第8回会議(遠隔:室長出席)
 8日(月) 令和3年度学部留学生選抜
 学部留学生選抜学部実施委員会(薬学部、スポーツ科学部以外)
 18日(木) 第10回国際センター運営委員会
- 3月** 22日(月) 令和3年度学部留学生選抜合格発表
 2日(火) 入学申込金納入締切
 8日(月) 入学手続締切
 18日(木) 第11回国際センター運営委員会
 19日(金) 卒業式(挙行予定)
 31日(水) 入学辞退届提出締切

16.

国際センター派遣プログラム 事件・事故発生時における緊急連絡網



17. 福岡大学国際交流チーム (FIT)

福岡大学国際交流チーム (FIT) の募集について 留学生との国際親善活動に参加しませんか！

国際センターでは、毎年協定校から日本語・日本文化を学ぶ研修生や交換留学生を受け入れ、さまざまなプログラムを提供しています。また、学部在籍している留学生に対しては勉学、生活面でのサポートを行なっています。

例をあげると、研修生が受講する日本語授業でのアシスタント、入学時に日本語が不慣れのうえ複雑でわかりにくい科目登録などの手続きを援助するチューター、言葉や生活習慣の違いで戸惑うことの多い留学生活でのアドバイザー、日本でのホームステイを希望する学生を受け入れてくれるホストファミリーなどです。

国際センターでは、下記のとおり国際交流プログラムで受け入れる外国人学生に対する支援活動に参画してくれるボランティア学生を募集します。大学生活の中で、国際親善活動を行なうことを希望している皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

記

1. 対象：学部学生および大学院学生
※登録期間は最短の修業年限とします。最短の修業年限を超えて在学する場合は、改めて申込が必要です。
2. 申込期間：随時受け付けます。
3. 申込方法：所定の申込用紙に所要事項を記入の上、「通学中等傷害危険担保特約」に加入し申し込んでください。未加入者は申込みを受け付けません。
※ボランティア行事に参加する際には、上記の保険に加え「学研災付帯賠償責任保険 Bコース」（保険期間:4月1日～翌年3月31日）に加入していただきます。
※両保険とも証明書自動発行機で加入の手続きができます。
※両保険の内容・保険料等及び証明書自動発行機の設置場所については、冊子「学生生活ガイド」を参照してください。
4. 申込・問合せ先：国際センター事務室（1号館1階）
5. 行事の連絡について：ボランティア行事についてはFUポータルのお知らせ及びWebメールで配信します。携帯電話へ案内メールを転送するようしておくことと見落としを防ぐことができますので、Webメールの転送機能の利用をお勧めします。



●福岡大学国際交流チーム（FIT）登録者数

（単位：人）

学部	学科	学部生							大学院生
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計	
人文	文 化		2	1	3			6	
	歴 史		1	1				2	
	日 本 語 日 本 文		1		2			3	
	教育・臨床心理							0	
	英 語		6	10	9			25	
	ド イ ツ 語		2	1				3	
	フ ラ ン ス 語		1	4	4			9	
	東アジア地域言語		5	4	20			29	
	小 計	0	18	21	38			77	
法	法 律		2	4	8			14	
	経 営 法			5	4			9	
	小 計	0	2	9	12			23	
経済	経 済		1	6	7			14	
	産 業 経 済		2	1	1			4	
	小 計	0	3	7	8			18	
商	商		2	4	4			10	
	経 営			3	1			4	
	貿 易		5	6	6			17	
	小 計	0	7	13	11			31	
商二部	商				3			3	
	小 計	0	0	0	3			3	
理	応 用 数							0	
	物 理 科							0	
	化			1	1			2	
	地 球 圏 科							0	
	小 計	0	0	1	1			2	
工	機 械 工			1	1			2	
	電 気 工							0	
	電 子 情 報 工							0	
	化学システム工				2			2	
	社会デザイン工			1				1	
	建 築							0	
	小 計	0	0	2	3			5	
医	医			1				1	
	看 護				1			1	
	小 計	0	0	1	1	0	0	2	
薬	薬			1	1	3	5	10	
	小 計	0	0	1	1	3	5	10	
スポーツ科	ス ポ ー ツ 科							0	
	健 康 運 動 科							0	
	小 計	0	0	0	0			0	
合 計		0	30	55	78	3	5	171	0

●福岡大学国際交流チーム (FIT) 活動状況

(1) 交換留学生および学部留学生「日本語授業」アシスタント

- (第1回) 日 時：6月22日(月) 1限目
参加者：2人(人文・工学部生各1人)
- (第2回) 日 時：6月22日(月) 2限目
参加者：3人(人文学部生1人、法学部生2人)
- (第3回) 日 時：10月2日(金)～12月18日(金) 5限目
参加者：3人(人文学部生2人、工学部生1人)
- (第4回) 日 時：10月2日(金)～12月18日(金) 6限目
参加者：3人(人文・法・工学部生各1人)
- (第5回) 日 時：10月30日(金) 6限目
参加者：1人(法学部生1人)
- (第6回) 日 時：12月7日(月) 5限目
参加者：2人(人文・工学部生各1人)
- (第7回) 日 時：12月14日(月) 5限目
参加者：2人(人文・工学部生各1人)
- (第8回) 日 時：12月14日(月) 6限目
参加者：2人(人文・工学部生各1人)
- (その他) 授業で使用するアンケート協力
協力者：8人(人文学部4人、法学部2人、経済・工学部生各1人)

(2) 交換留学生 太宰府天満宮・九州国立博物館見学引率

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度は中止となりました。

(3) 交換留学生「生活準備」及び「科目履修支援」ボランティア

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度は中止となりました。

(4) 留学生研修旅行アシスタント

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度は中止となりました。

(5) アジア圏協定校との学生交流セミナーアシスタント

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度は中止となりました。

(6) 交換留学生 大相撲九州場所観戦引率

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本年度は中止となりました。

18. 国際センター運営委員会構成員名簿

令和2年12月1日現在

	所属	資格	氏名
センター長	工	教 授	※三島 健司
センター長補佐	商	准教授	※太宰 潮
	工	教 授	※上山 憲昭
	薬	准教授	※佐藤 朝光
センター委員	人文	教 授	石井 和仁
	法	准教授	※東原 正明
	経済	教 授	井手 豊也
	商	准教授	林 裕
	理	教 授	藤木 淳
	工	准教授	鈴木 慎也
	医	教 授	山本 卓明
	薬	准教授	大江 賢治
	スポーツ科	教 授	布目 寛幸
センター教員	人文	教 授	岡野 ひさの
	法	教 授	ウエストン、ステファニー・A
	国際センター	准教授	※佐々木 有紀
		講 師	新田 よしみ
センター事務責任者		センター 事務部長	※里屋 眞澄

※は企画推進会議構成員

19. 2020年度 国際センター企画推進会議

●協議事項一覧

2020 年度の開催はなし

20. 2020年度 国際センター運営委員会 協議事項・報告事項一覧

第1回 令和2年4月9日（木）メール会議

《協議事項》

1. 令和3年度外国人研究生の出願要項（案）について
2. 令和2年度秋期交換留学生受入れについて
3. 令和元年度国際センター決算概要について
4. 2019年度『海外インターンシップⅠ』の単位について
5. 令和元年度FD活動推進経費支出報告について

《報告事項》

1. 令和2年度学部留学生入学手続者数について
2. 令和元年度国際センタープログラムの研修生の帰国について
3. 令和2年度交換留学生（夏期派遣）について
4. 令和2年度海外夏期英語研修（ニューカッスル大学派遣）について
5. 令和2年度特別授業の申込状況について
6. 令和2年度国際交流会館国際交流棟学生委員の紹介及び入居者オリエンテーションについて
7. 令和2年度G.A.P.履修状況について
8. 令和2年度「世界に打って出る若者育成事業」について

臨時（1回目）令和2年4月17日（金）メール会議

《協議事項》

1. 令和2年度G.A.P.科目の開講について

第2回 令和2年5月14日（木）

《協議事項》

1. 令和2年度「G.A.P.履修生」の認定申請について
2. 令和2年度交換留学（春期派遣）の出願期間の変更について
3. 大学間協定について
4. 令和2年度交換留学生受入れ期間変更について

《報告事項》

1. 令和元年度福岡大学ハルピン事務所の活動報告について
2. 福岡大学工学部国際プレゼンテーションコンテスト案内について

臨時（2回目）令和2年6月3日（水）メール会議

《協議事項》

1. 令和3年度学部留学生選抜要項案について

第3回 令和2年6月11日（木）メール会議

《協議事項》

1. 令和2年度私費外国人留学生（学部学生）の授業料減免について
2. 学部等の海外派遣プログラム支援金について
3. 令和2-3年交換留学生日本語・日本文化講座について

《報告事項》

1. 令和2年度日本留学フェアについて
2. その他

第4回 令和2年7月9日（木）メール会議

《協議事項》

1. 令和2年度春期派遣交換留学生の選考について
2. 令和2年度国際センタープログラム（後期）について
3. 令和3年度以降のグローバル・アクティブ・プログラム（G.A.P.）について

《報告事項》

1. 令和3年度学部留学生選抜要項（案）について
2. 令和3年度以降のGE海外研修について
3. 令和2年度秋期受入れ交換留学生の辞退について

臨時（3回目）令和2年8月21日（金）メール会議

《審議事項》

1. 令和2-3年交換留学生日本語・日本文化講座実施計画（修正案）について
2. 国際センター利用SNS アカウントの導入について
3. 2020年度JASSO主催日本留学オンラインフェア参加について

第5回 令和2年9月17日（木）メール会議

《協議事項》

1. 福岡大学入学者選抜にかかる入試区分および名称の変更に伴う国際センター関連規則の一部改正について
2. 国際交流会館国際交流棟入居者の室料等改定について
3. 令和2年度自己点検・評価の実施について

《報告事項》

1. 令和元年度夏期派遣交換留学生の帰国報告について
2. 令和2年度春期派遣交換留学生について
3. 交換留学生（受入れ）の日本語講座報告、聴講科目成績について
4. 令和2年度秋期（9月）受入れ交換留学生について
5. 令和2年度秋期（9月）受入れ交換留学生の辞退について
6. 「福岡大学私費外国人留学生奨学金」及び「福岡大学アジア特定地域学部留学生学修奨励費」の選考結果について
7. 学内留学フェア（後期プログラム説明会）の中止について
8. 留学生研修旅行の中止について
9. 令和2年度G.A.P.科目・G.A.P.講座の授業アンケートについて
10. ヴァレンシア大学（スペイン）との大学間協定の終了について
11. 出張報告（オンライン）について

第6回 令和2年10月8日（木）メール会議

《協議事項》

1. 福岡大学グローバル・アクティブ・プログラム（G.A.P.）の終了に伴う関係規則の一部改正および廃止について
2. 令和2年度自己点検・評価について
3. 令和3年度国際センター事業計画案および予算案について
4. 令和3年度FD活動推進経費計画案及び令和2年度中間報告について
5. 福岡大学公式ウェブサイトの国際センター個別サイトのリニューアルについて
6. ランゲージ・エクスチェンジ・プログラム（仮称）の実施について
7. 令和2年度「G.A.P.履修生」の認定申請について

《報告事項》

1. グローバル人材育成推進事業の総括について
2. JCSOS への加入と危機管理サービス J-TAS のご案内について
3. オンラインによる日本留学フェアについて

第7回 令和2年11月5日（木）メール会議

《審議事項》

1. 令和2年度春期（2月）派遣交換留学生の派遣について
2. 令和3年度夏期（8月）派遣交換留学生の選考について
3. 令和3年度春期（4月）受入れの交換留学生について
4. 令和4（2022）年度学部留学生選抜要項（案）について
5. 国際センター教育改善会議の設置について
6. 私立大学ガバナンス・コードについて
7. 令和3年度G.A.P.科目に代わる新科目の開講について（案）

《報告事項》

1. 令和3年度学部留学生選抜の出願書類について
2. 福岡大学グローバル・アクティブ・プログラム（G.A.P.）の終了に伴う関係規則の一部改正の追加について
3. オンラインシンポジウムの受講について

第8回 令和2年11月26日（木）メール会議

《協議事項》

1. 2021年度外国人研究生の受入れについて
2. 客員教授候補者の推薦について
3. ウオッシュバン大学研修のオンラインプログラム（トライアル版）について
4. 「学部・大学院横断的な英語による教育プログラム」の策定に向けたワーキング・グループの総括について

《報告事項》

1. 令和3（2021）年度学部留学生選抜の関係行事について
2. 令和2年度「アジア圏協定校との学生交流セミナー」の中止について
3. 令和3年度春期受入れ交換留学生について
4. 令和2年度福大生サポート募金による交換留学支援金について

第9回 令和3年1月14日（木）メール会議

《協議事項》

1. 令和3年度学部留学生選抜について
2. 大学間協定の締結について

《報告事項》

1. 令和4（2022）年度学部留学生選抜要項（案）について
2. ウオッシュバン大学オンライン研修について
3. 令和3年度『福大生のための学習ナビ』編集委員の選出について
4. 令和3年度共通教育科目英語科目の担当者について
5. 客員教授候補者の推薦について
6. 2020年度『国際センター活動報告書』掲載原稿について

第10回 令和3年2月18日（木）オンライン会議

《協議事項》

1. 令和3・4年度交換留学（派遣）プログラム募集要領（案）、選考方法（案）について
2. 令和3年度海外研修（派遣）プログラム募集実施要領（案）、選考方法（案）について
3. 令和3年度海外語学研修（派遣）プログラム募集実施要領（案）について
4. 令和3年度海外語学研修（派遣）プログラム募集実施要領（案）について
5. 令和3年度国際センターが実施する授業及び行事（案）について
6. 令和3年度グローバル特別授業及び目的別短期集中講座について
7. 令和3年度「学部等の海外派遣プログラム参加学生支援」について

8. 令和3年度海外短期教育研修について
9. デュースブルク・エッセン大学（ドイツ）からの要望について
10. 専門教育の講義を英語で行う英語教育プログラム策定について
11. 「THE 及び QS世界大学ランキング」の申請について
12. FD講演会「大学ランキングを高めるコツ」の開催について
13. 海外からの教員・研究者・留学生等の受入れ側教員・職員を支援する対応について
14. 大学間協定と協定校との交流活動の維持方法について
15. FIT（福岡大学国際交流チーム）の担当教員について

《報告事項》

1. 日本マレーシア協会主催のオンライン研修の実施について
2. 令和3年度春期受入れ交換留学生の授業受講依頼について
3. 令和3年度春期受入れ交換留学生の辞退について
4. 交換留学生の送別会の中止について
5. 学内留学フェアについて
6. TOEIC 講演会について
7. トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム（第14期）の募集及びSIPSについて
8. 令和3年度学部留学生選抜の終了報告
9. 令和3年度受入れ交換留学生に対する日本語・日本文化講座の方針について
10. 留学生別科の現状について

第11回 令和3年3月18日（木）

《協議事項》

1. 令和3年度海外研修（蔚山大学校派遣）について
2. 令和3・4年度交換留学（派遣）プログラムの選考方法について
3. 大学間協定の締結について
4. フリードリヒ・シラー大学イエナ（ドイツ）と人文学部の部門間交流の支援について

《報告事項》

1. 専門教育の講義を英語で行う英語教育プログラムの策定について
2. 海外からの教員・研究者・留学生等の受入れ側教員・職員を支援する対応について
3. FD講演会について
4. デュースブルク・エッセン大学（ドイツ）からの要望について
5. 令和3年度学部留学生選抜の結果報告について
6. マレーシア国際イスラム大学（IIUM）とのオンライン交流について
7. 令和2年度G.A.P.科目（後期）の成績について
8. 令和2年度G.A.P.修了者について
9. 令和2年度「Language Exchange Program」の報告及び令和3年度の実施について
10. 交換留学生（受入れ）の日本語・日本文化講座中間報告、聴講科目成績について
11. 令和3年度特別授業について
12. 学部留学生（新入生）の履修登録相談会について
13. 令和3年度の国際センタープログラムについて
14. 福岡県「令和3年度世界に打って出る若者育成事業」プログラムの募集について
15. 令和3年度外国人研究生延長の辞退について
16. 「学部留学生入学案内」の原稿について
17. その他

21.

令和2年度に学部等で実施された
学生を対象とした国際交流事業

例年各学部で実施される学生の国際交流事業については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、一部の実施しかありません。

学部	学科	派遣・受入	交流大学名 (国・地域)	参加学生人数	実施時期・期間	学生交流の内容（予定を含む）
人文学部	英語学科	派遣	カルガリー大学 (カナダ)	0人	2020/8/3-9/1	英語学科の専門科目「英語圏文化研修」（通年科目）の一環として、夏期にカナダのカルガリー大学において、語学プログラムに参加し、世界各国からの留学生とともにESL等の授業を受講したり、カルガリー大学が主催する週末のアクティビティにも他の留学生とともに参加することで、生きた英語を身につけると共に、異文化を体験することによって国際的な視野を身につけるものである。宿泊は全期間ホームステイ。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、実施なし。
	ドイツ語学科	派遣	フリードリヒ・シラー大学イエナ (ドイツ)	0人	2020/8/初-9/初	ドイツ語学科の専門科目「ドイツ語現地研修」として、フリードリヒ・シラー大学イエナのDaF（外国語としてのドイツ語学科）が提供する4週間の夏期講習。ワイマールやドレスデンなどの近隣の諸都市や首都ベルリンでの文化研修を含む。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。 ※現地研修はイエナのみ
				0人	2020/8/初-	同大学のDaF（外国語としてのドイツ語学科）と人文学部の協定に基づくドイツ語学科学生の派遣。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。
				0人		同大学の東アジア研究所と人文学部の協定に基づくドイツ語学科生の派遣。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。
		受入 (オンライン)	フリードリヒ・シラー大学イエナ (ドイツ)	2人	2020/9-2021/3	同大学のDaF（外国語としてのドイツ語学科）と人文学部の協定に基づき、研修生として2人とオンラインで交流。
		受入	デュースブルク・エッセン大学 (ドイツ)	0人	2020/9/初-	同大学のDaF（外国語としてのドイツ語学科）と人文学部の協定に基づく交換留学生の受入れ。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。
				0人		同大学の東アジア研究所と人文学部の協定に基づく交換留学生の受入れ。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。
	フランス語学科	派遣	ルーヴアン・カトリック大学 (ベルギー) 及びパリ (フランス)	0人	2021/2/13-2021/3/14	海外語学研修 1. ルーヴアン大学 (Université catholique de Louvain) において3週間。 A フランス語研修ならびにフランス・フランス語圏文学、文化研修 B 課外授業:美術館、歴史記念物、文化遺産等見学、観劇、音楽鑑賞 C 文化交流会:日本大使とルーヴアン大学学長列席 2. パリ 1週間 (ルーヴアン語学研修に引き続き) パリでのフランス語実践、フランスの歴史、文化財産めぐり 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。
			ルーヴアン・カトリック大学 (ベルギー)	0人	2020/9-2021/6	福岡大学フランス語学科とルーヴアン・カトリック大学との国際交流協定に基づく交換留学生の派遣。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。
			パリ大学 (フランス)			福岡大学フランス語学科とパリ大学との国際交流協定に基づく交換留学生の派遣。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。
		受入	ルーヴアン・カトリック大学 (ベルギー)	0人	2020/9-2021/2	福岡大学フランス語学科とルーヴアン・カトリック大学国際交流協定に基づく交換留学生の受入れ。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。
			パリ大学 (フランス)	0人	2020/9-2021/7	福岡大学フランス語学科とパリ大学との国際交流協定に基づく交換留学生の受入れ。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。
	東アジア地域言語学科	タンデム学習	広州大学 (中国)	0人	2020/4-3か月間、2020/10-3か月間	タンデム学習とは、広州大学日本語専攻の学生と中国語を学んでいるLA（東アジア地域言語学科）の学生を対象とした、インターネットを介して互いの言語や文化を学び合う交流プロジェクトである。2020年度は、学部生19人（全て女子学生）が参加した。コーディネーター（広州大学の欧先生）が参加者のレベルに合わせてペアを組み、ガイダンスを行い、勉強法を指導する。学び合う頻度と時間は、週1回、1回1時間半程度である。
法学部	全学科	派遣	オタワ大学 (カナダ)	0人	2020/8/初-8/下	この交流事業は、法律学科・経営法学科2年次生以上を対象とする「アメリカ海外研修」として、受入れ先のオタワ大学（カナダ）において講義の受講や現地の公的機関訪問を予定していた。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。
			ビクトリア大学ウェリントン (ニュージーランド)	0人	2021/1/下-2/中	この交流事業は、法律学科・経営法学科2年次生以上を対象とする「アジア法セミナーⅠ（アジア太平洋法政事情）」として、受入れ先であるビクトリア大学ウェリントン（ニュージーランド）においてニュージーランドの司法、政治、経済、歴史、文化等の講義を受講するとともに、現地の公的機関や企業を訪問予定であった。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。

学部	学科	派遣・受入	交流大学名 (国・地域)	参加学生人数	実施時期・期間	学生交流の内容（予定を含む）
法学部	経営法学科	派遣	シアトル大学 (アメリカ合衆国)	0人	2020/8/中 -8/下	この交流事業は、経営法学科1年次生を対象とする「国際コミュニケーション法政事情（海外研修）」として、受入れ先であるシアトル大学において日米関係や米国の司法制度等の講義を受講するとともに、現地の公的機関や企業を訪問予定であった。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施なし。
経済学部	全学科	オンライン	蔚山大学校（韓国）	50人	8月25日～ 8月30日	通常は、日本と韓国とを行き来して実地で両国経済について見学したり、英語を通じたディスカッションをしている。また、オープンキャンパスの模擬授業として日韓両国学生による英語プレゼンテーションを高校生の前で披露してきた。しかし、2020年度に関しては、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、実地での交流が不可能であった。そのため、オンラインで教員の英語の授業と学生の英語プレゼンテーションを行った。また、Zoomのブレイクアウトセッション機能を用いて、学生の小グループごとのディスカッションを行い、さらに交流を深めた。
			静宜大学（台湾）	40人	8月4日～ 8月9日	通常は、日本と台湾とを行き来して実地で両国経済について見学したり、英語を通じたディスカッションをしている。また、グループに分かれて両国で見学に出かけて交流を深める活動も行ってきた。しかし、2020年度に関しては、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、実地での交流が不可能であった。そのため、オンラインで教員の授業と学生のプレゼンテーションを行った。また、Webexのブレイクアウトセッション機能を用いて、学生の小グループごとのディスカッションを行い、さらに交流を深めた。
薬学部	薬学科	オンライン	アメリカ、オーストラリア、カナダ、イギリス、ニュージーランド、シンガポール	4人	2020/9/5、 9/10、9/11、 9/17、9/18、 9/25	世界的な新型コロナウイルス禍の各国の現状や見通し、新しい教育について、アイエスエイ株式会社の現地スタッフによるオンライン講演を受講。
			アメリカ	未定	2021/2/23、 2/28、3/7、 3/21	「MPC オンラインアメリカ研修」として実施。 ・環境定義・課題定義 ・アメリカの薬局から学ぶ～薬剤師のすべきことは何か？～ Don Downing 教授による講義 シアトル在住日本人薬剤師による講義 調剤工場見学、テクニシャンとの交流等 ・社会変革プログラム～社会を変えるための道筋～ ・未来への提言・活動へ ・チームディスカッション
スポーツ科学部	スポーツ健康科学研究科	受入	マラ工科大学 (マレーシア)	1人	2018年4月～ 2021年3月 (研究生期間 1年を含む)	マラ工科大学（マレーシア）より、博士号取得を目指して派遣されたスポーツ健康科学研究科、博士後期課程に在籍の Shariman Ismail が同研究科において博士号（PhD）を取得した。

22. グローバル人材育成推進事業総括

「グローバル人材育成推進事業」の総括

目次

1. 本学における国際化推進の経緯
2. 「アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成」の活動指針
 - 【活動指針1】 グローバル・アクティブ・プログラム（G.A.P.）の定着・拡充
 - 【活動指針2】 海外派遣・受入れ留学生数の拡大
 - 【活動指針3】 教育環境のグローバル化
3. 活動指針に沿った総括
 - 3-1. 【活動指針1】 に沿った総括
 - (1) G.A.P.履修者の福岡大学海外派遣学生に占める割合
 - (2) 短期海外研修および事前研修による学生の異文化対応力の成長
 - 3-2. 【活動指針2】 に沿った総括
 - 3-3. 【活動指針3】 に沿った総括
4. その他関連する報告ならびに将来的な課題と展望
 - 4-1. TOEIC®Listening & Reading Test 受験者の増加
 - 4-2. デュアル・ディグリー・プログラム導入への取り組み
 - 4-3. 学内外の連携によるグローバル化の広がり
 - 4-4. 「G.A.P.e ナビ」の整備
5. G.A.P. の今後の課題
 - 5-1. G.A.P. の成果
 - 5-2. 令和3年度以降のグローバル人材育成推進事業
 - 5-3. 国際センターの具体的な取り組み

「グローバル人材育成推進事業」の総括

1. 本学における国際化推進の経緯

本学では、平成24年10月18日の大学協議会において、「福岡大学グローバル人材育成推進事業」を積極的に推進することが承認され、同年後期の準備期間を経て、平成25年4月より今日に至るまで、同事業を実施してきた。当事業の推進にあたっては、平成24年度から平成26年度までの3年間で第一期（始動期）として制度の弾力的な導入に努め、第二期（平成27年度～29年度）および第三期（平成30年度～令和2年度）の拡充期につなげている。基本的な考え方や方向性は、当時の「グローバル人材育成推進委員会」において審議され、国際センターが当事業の柱となる「グローバル・アクティブ・プログラム（G.A.P.）」の定着・拡充を図るとともに、海外派遣・受入れ留学生数の拡大、教育環境のグローバル化を推進してきた。平成26年度には、『福岡大学ビジョン2014-2023「アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成」』が策定され、その後、国際センター教員2名が採用された。平成29年度には、「基本計画委員会国際化推進専門部会」から答申が出され、新たな審議機関として平成30年4月に「国際化推進会議」が設置された。本会議では、全学的な観点から国際化推進に向けた検討を進めることとなり、これまで3回開催されてきた。各回の会議で議論された主な議題は以下の通りである。

・ 第1回（平成30年9月6日開催）：

本学の国際化推進についての振り返りと現状について

・ 第2回（平成31年1月10日開催）：

グローバル・アクティブ・プログラム（G.A.P.）の総括、留学生受入れ拡大についての現状と課題、英語による教育プログラムの策定WGの設置について

・ 第3回（令和元年6月27日開催）：

英語による教育プログラム（案）の中間報告と問題点の指摘、共通教育科目における G.A.P.科目の設置について

2. 「アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成」の活動指針

本節で、「アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成」の具体的な3つの活動指針をそれぞれ確認した後、次節より、その活動指針毎に総括を行いたいと思う。

【活動指針1】グローバル・アクティブ・プログラム（G.A.P.）の定着・拡充

外国語能力だけではなく、日本およびその文化の理解の上に異なる文化圏の人々の考えを共有、尊重し、様々な場で彼らと協働・行動できる人材の育成を目的とした「グローバル・アクティブ・プログラム（G.A.P.）」の定着および拡充を図る。

①アジア関連科目の充実：アジア諸国の協定大学との教育・研究交流・人的交流を活性化させ、G.A.P.科目である「アジア学入門」「アジア現地研修」を充実させる。

②英語による授業の増設：G.A.P.の「基礎科目群」および「国際教養科目群」の授業の90%を英語による授業とする。また、「留学・海外研修科目群」に、各学部の専門性に合わせたプログラム（英語コミュニケーション能力向上プラス企業研修）を開設する。

③G.A.P.履修生の拡大：英語によるグローバル人材育成講演会ならびにワークショップを年に複数回開催し情宣するとともに、正課としての G.A.P.科目の開設を検討し G.A.P.履修生の拡大を図る。

【活動指針2】海外派遣・受入れ留学生数の拡大

既存の海外協定校との連携強化および新規海外協定校（大学間）の開拓（16大学程度）を進めることにより、派遣・受入れ留学生数を拡大し、国際的素養と視野および行動力を備えた人材を育成する。また、学部や大学院独自の部門間協定による海外派遣・受入れに係る取組みの支援も充実させる。

①派遣：外国語教育を強化し、従来の海外研修、語学研修、交換留学、学部・大学院独自の海外派遣（交換留学、

海外研修)数の増加に加え、G.A.P.に海外渡航を伴う科目を増設する。これらにより、将来的に毎年1,000人を留学や研修等に派遣することを目指す。

②受入れ：宿舎等の整備、奨学金制度の充実、海外協定校の増加や協定校との関係強化などにより、留学生(学部留学生、大学院留学生、交換留学生、短期外国人研修生)を増やす。特に、交換留学生や短期外国人研修生を増やすための受け皿として、現在の留学生別科の日本語および日本事情(文化、歴史、政治経済等)に関する教育機能を充実させる。併せて、英語による日本事情の教育も充実させる。また、地域と留学生との交流の活性化、福岡県留学生サポートセンター等との連携により学部・大学院留学生の日本での就職活動を積極的に支援する。将来的には、受入れ留学生数は、1,000人を目標とする。

③アジア諸国との交流の活性化：国際センタープログラムである「アジア圏協定校との学生交流セミナー」の拡充など、アジア諸国との交流の活性化を図る。

④オセアニア・欧米諸国との交流：アジア諸国との交流と並行してオセアニア・欧米諸国との交流(派遣・受入れ)も充実させる。

【活動指針3】教育環境のグローバル化

①FD・SDに関わるプログラムの整備：授業(G.A.P.、共通教育、専門教育)を英語で行う教員の支援、事務職員による英語や中国語などによる指導の充実のため、教職員語学研修や教職員海外研修プログラムを整備する。また、学部や大学院における教員交流やグローバル化への取組みの支援も充実させる。

②シラバス、ウェブサイト、パンフレットなどの多言語化：海外協定校との関係強化、新規開拓および留学生数の拡大に必要なシラバス、ウェブサイト、パンフレットなど、英語を中心に多言語化を進める。

3. 活動指針に沿った総括

福岡大学ビジョン2014-2023「アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成」実績
(グローバル人材育成推進事業)

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 R1
活動指針1 グローバル・アクティブ・プログラム(G.A.P.)の定着・拡充								
(1) G.A.P.アジア学入門受講生(人)		47	13	8	15	11	7	6
(2) G.A.P.英語科目割合(%)		-	68%	78.9%	78.9%	82.4%	83.3%	88.8%
(3) G.A.P.受講生(人) GE含む		319	298	301	465	368	288	292
活動指針2 海外派遣・受入留学生数の拡大								
(1) 派遣	海外研修(人)	452	486	457	448	450	503	458
	海外インターンシップ	16	38	29	33	14	19	17
	交換留学(人)	26	26	37	45	47	48	21
	計(人)	494	550	523	526	511	570	496
(2) 受入	学部留学生(人)	124	108	92	76	64	59	74
	大学院留学生(人)	106	96	75	54	51	44	48
	交換留学生(人)	36	43	50	66	52	55	65
	外国人研修生(人)	88	65	287	90	124	110	181
	留学生別科生(人)	84	72	63	59	58	49	66
	研究生(人)	88	44	29	18	15	13	10
	計(人)	526	428	596	363	364	330	444
①グローバル次世代リーダー奨学制度		中止						
(3) アジア諸国との交流の活性化		アジア圏での協定校の増加、英語による教育プログラムの充実等						
(4) オセアニア・欧米諸国との交流		セントラル・ランカシャー大学(イギリス)との大学間協定締結等						
* 協定校数		54	54	60	62	70	76	83
活動指針3 教育環境のグローバル化								
(1) FD・SDに関わるプログラムの整理								

①語学研修プログラム(教職員対象)	実施に至っていない						
②海外短期教育プログラム	—	4	4	4	4	5	6
③海外職員研修プログラム(協定大学派遣)	実施に至っていない						
④教育サバティカル制度(在外教育研修制度)	実施に至っていない						
⑤外国人数員招聘制度(教育目的の外国人数員招聘)	実施に至っていない						
(2)シラバス、ウェブサイト、パンフレットなどの多言語化	多言語化の検討。留学生別科ウェブサイト・パンフレットは多言語化。						
活動指針4 カリキュラムの体系化と整備							
(1)学内教育課程の可視化	カリキュラムマップ、ナンバリングの作成等						
活動指針5 国際センターの機能強化							
(1)組織再編・拡充、連携強化	国際センターと留学生別科の一体的運営等						

3-1.【活動指針1】に沿った総括

インドネシアとベトナムを中心に「アジア学入門」を開講し、その国の言語と文化を学習させ、「アジア現地研修」で平成26年度から当該国の協定校（ベトナム：ハノイ大学、インドネシア：パジャジャラン大学）に、ベトナムは計34人、インドネシアは計11人の学生を派遣してきた。ベトナム研修は平成29年度に人数不足のため派遣を中止したが、その後は順調に参加者が推移している。インドネシア研修は、応募者が少ないため、平成29年度と平成30年度は実施できていない。また、「福岡大学国際センター海外危機管理マニュアル」に従い、令和元年度は派遣を中止している。（外務省の「海外安全ホームページ」に掲載されている「海外安全情報」によると、インドネシアは「レベル1：十分注意してください」その国・地域への渡航、滞在に当たって危険を避けていただくため特別な注意が必要です、に指定されており、「福岡大学国際センター海外危機管理マニュアル」では「レベル1」国へ学生は派遣しないとなっている。）

G.A.P.の「基礎科目群」および「国際教養科目群」の授業は、現在、ほぼ90%英語で実施しており、当初の数値目標をクリアしている。また、G.A.P.科目に関しては、交換留学生の履修登録が当初の予想を上回っており、G.A.P.科目を履修している日本人学生は、本学のキャンパスにしながら、G.A.P.クラスで「異文化体験」や「留学生との協働学修」を経験することができている。学生への支援については、G.A.P.の海外研修に参加する学生に対して大学から全員に支援金(最大8万円)に加えて、各研修の成績上位者20%の学生に対し、一人当たり5万円を給付している。

グローバル人材として成長することの重要性を喚起するため、「グローバル人材育成講演会・ワークショップ」を年に数回開催している。特に、毎年4月に開催する TOEIC ワークショップには多数の学生が参加をしている。企業が TOEIC をどのように評価しているかという側面から講演者に話をさせていただいており、このワークショップも本学学生の TOEIC 受験者のモチベーション向上に寄与していると考えられる。

活動指針で挙げたように、G.A.P.履修生の拡大、G.A.P.修了生の増加には未だ至っておらず、G.A.P.修了生は、平成27年度の1名が最初で、令和元年度までに計9名であった。しかしながら、G.A.P.の一つとしてGE(Global English)クラス(共通教育・外国語科目インターミディエイト・イングリッシュの目的別クラスのひとつ)を開講することで、本学の学生一海外留学が初めてであり、海外に対して消極的な面がある一をグローバル人材として育成することができていることが、以下の3つのデータから明らかである。

(1) G.A.P.履修者の福岡大学海外派遣学生に占める割合

表2は、福岡大学の海外派遣学生のうち、G.A.P. 海外研修及び GE 海外研修の参加者が占める割合を経年で表したものである。

表2. 海外研修参加者数一覧(平成25年度～令和元年度表内の数値は、人数)

内容	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
全体	494	550	523	526	511	570	496
G.A.P.関係海外研修合計	113	148	156	188	174	154	140
アジア現地研修	0	6	15	4	0	11	9
海外インターンシップ I	0	6	6	5	3	3	3
G.A.P.海外研修	0	0	0	16	17	0	0
GE	113	136	135	163	154	140	128
G.A.P./全体	22.9%	26.9%	29.8%	35.7%	34.1%	27.0%	28.2%

(資料：国際センター活動報告書(平成30・令和元年度)より)

表2を見ると、過去7年間、G.A.P.関係の海外研修参加者が福岡大学の海外派遣学生の全体の20%以上を占めており、平成26年度以降は全体の25%を超えている。この数字から考えて、G.A.P. は福岡大学のグローバル化に少なからず貢献しており、その中でも GE クラスの果たす役割が大きいのは明らかである。「福岡大学ビジョン2014-2023」の重点項目「アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成」にあげられている「語学研修と留学の受け入れ先を用意して日本人学生を海外に派遣する」目標達成のために、GE クラス及び G.A.P. の担っている役割が非常に大きいと考えられる。

平成28年度から平成29年度にかけて、大津敦史国際センター長(当時)、国際センター教員2名(佐々木有紀、新田よしみ)、人文学部の長加奈子教授、竹安大准教授が中心となり、学部例に準ずる形式で G.A.P.科目のディプロマポリシー (DP)、カリキュラムマップ (CM) 及び G.A.P. ルーブリックを開発した。

(2) 短期海外研修および事前研修による学生の異文化対応力の成長

G.A.P.の目標とする「国際的な視野と活動能力を持ったグローバル人材」の育成には、英語力の向上に加え、言語や文化の異なる人々と積極的にコミュニケーションすることができる異文化対応力が不可欠と考えられる。そこで、GE クラスを履修して海外研修に参加した学生について、①異文化対応力測定尺度および②BEVI-jの2つのアセスメントツールを用いて、短期海外研修とその事前研修 (G.A.P.講座) の成果検証を行った。その結果、以下の図1、図2に示されるように参加学生の異文化対応力に変化が見られ、事前研修と短期海外研修の経験が、グローバル人材としての学生の成長に寄与していることが示された。

(注：G.A.P.講座は5週間の短期集中型授業であり、その内容は1) 身体を使ったコミュニケーション力の向上、2) 留学生 TA との協働学修、3) TOEIC 講座の三種類から構成されている。)

①異文化対応力測定尺度 (平成30年度8月研修生)

図1は、平成30年度の GE クラス履修者140名のうち8月に海外研修に参加した81名を対象に行った異文化対応力測定尺度調査の結果である。本学で行われた事前研修 (G.A.P.講座) の開始前 (第1回調査) と、事前研修終了後/渡航前 (第2回調査)、海外研修終了後 (第3回調査) の3回調査を行った。そして、集計した回答の因子分析を行った結果、異文化対応力の基本能力である①国際交流への積極的態度 (「交流」因子)、②国際交流における意思疎通スキルの向上 (「スキル」因子)、③研修で滞在した相手国に関する知識 (「相手国」因子) の3分野において、事前研修前⇒事前研修後 (渡航前) ⇒海外研修後の2段階で有意 ($p<.001$) の差が認められ、GE クラス履修者が事前研修 (G.A.P.講座) と海外研修への参加により、異文化対応力を段階的に向上させたことが読み取れる。

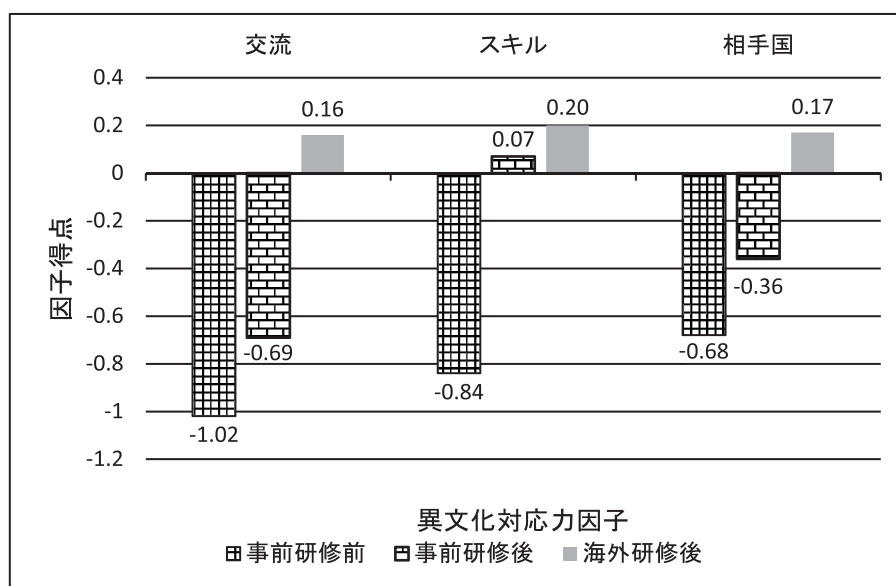


図1. 事前研修前後・海外研修後の異文化対応力調査結果比較

② 学生の内面変化の可視化（BEVI-j）

（ア）BEVI-j（Beliefs, Events, and Values Inventory テストの日本語版）とは

短期海外研修や事前研修が学生個人に及ぼす影響を可視化する、アメリカで開発されたテストである。海外短期研修や異文化交流が個人に与えた影響を可視化し、教育効果を測定することを目的とすべく、令和元年度より導入した。

（イ）結果（令和元年8月GE クラスバンクーバー研修参加学生12名のうち、下位30％の学生）

T1（4月）と T2（6月：G.A.P.講座終了時）の「世界との共鳴」（Global Resonance：様々な個人、集団、言語、文化について学習することまた出会うことに傾倒している；世界への関与を模索している）と「社会文化的オープン性」（Sociocultural Openness：文化、経済、教育、環境、ジェンダー、国際関係、政治に関する様々な行動、政策また実行について進歩的、オープンである）の変化をグラフ化した。

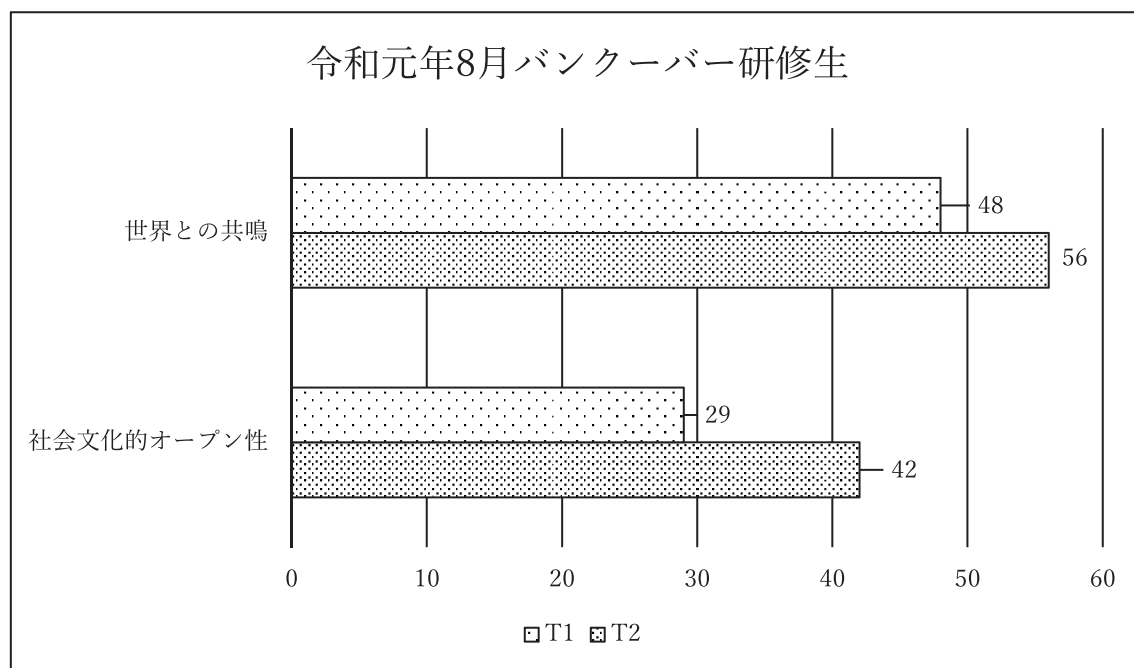


図2. T1（4月）/T2（G.A.P.講座終了時）データ（抜粋）

学生がG.A.P.講座で様々な課題をこなしていくことで、4月の時点では若干閉鎖的であった学生の性格がよりオープンになり、積極的に他者と関わるように変化したことが明らかとなった。外部からの刺激に対して反応し、意欲的に行動を起こす方向へ学生の内面が動いたことが、グラフによって可視化された。

3-2. 【活動指針2】に沿った総括

このような活動指針が策定された当時、海外協定校は53大学1機関の合計54校であったので、2023年までにはその数を16大学程度増やし、合計で70校にする計画であった。その後、令和2年7月1日現在、海外協定校総数は22カ国・地域、82大学1機関にまで伸びている。そのうちアジア圏の大学は59校にのぼり、全体の72%を占めている。

一方、海外派遣・受入の学生数を共に毎年1,000人にすることが当初の数値目標であるが、令和元年度では、以下の数値に留まっている。

活動指針2 海外派遣・受入留学生数の拡大

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
(1) 派遣	海外研修（人）	452	486	457	448	450	503	458
	海外インターンシップ	16	38	29	33	14	19	17
	交換留学（人）	26	26	37	45	47	48	21
	計（人）	494	550	523	526	511	570	496

(2) 受入	学部留学生（人）	124	108	92	76	64	59	74
	大学院留学生（人）	106	96	75	54	51	44	48
	交換留学生（人）	36	43	50	66	52	55	65
	外国人研修生（人）	88	65	287	90	124	110	181
	留学生別科生（人）	84	72	63	59	58	49	66
	研究生（人）	88	44	29	18	15	13	10
	計（人）	526	428	596	363	364	330	444

海外派遣の人数が伸びなかった理由としては、就職活動への影響や経済的問題の他、平成26年に起こったヨーロッパやアメリカでのテロの影響も大きかったと考えられる。また、令和元年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で春季の交換留学・海外研修が中止となったため、派遣人数が大幅に減少する結果となった。

海外からの受け入れ人数については、受け入れ身分により人数の増加・減少の差が大きかった。例えば、学部留学生・大学院留学生については、より優秀な留学生を受け入れたいという学部・研究科の受け入れ方針を反映して受け入れ人数が減少する傾向を示したのではないかと推察される。また、研究生については、安易な受け入れを防ぐために入国管理局の統制が厳しくなり、受け入れ基準が厳格化されたため人数が減少した。留学生別科は60名が定員であり、ほぼ毎年定員を満たす受け入れを続けている（定員の2割増しまで受け入れ可能）。交換留学生に関しては、年により多少の増減はあるものの、本学協定大学の拡大を反映して令和元年度までは増加の傾向にあったが、コロナ禍の影響で、令和2年度は人数が減少することが予想される。一方、外国人研修生は、平成25年度の88名から令和元年度181名へと大幅に受け入れ人数が増加しており、この傾向を将来につなげるため受け入れ体制を強化したい。

今後もアジア諸国を中心に優秀な留学生を受け入れ、日本人学生との異文化交流教育を推し進め、キャンパスにおける国際的な学びの場を創造し、双方向での多文化共生力の育成を目指す必要がある。また、グローバルな視点と外国語の卓越したコミュニケーション能力を涵養するため、日本人学生に協定校を中心とした海外留学を積極的に奨励する施策を行い、世界の広範な事象に関する幅広い知識と深い理解、物事の本質を見抜く洞察力と思考力を持った学生の成長を支援したいと考える。

この理念を具現化すべく、現在、以下のような取組みが進行中である。

(1) 平成29年度から、「学部等の海外派遣プログラム参加学生支援」と称する支援金制度を新設し、各学部の専門性に合わせた海外研修プログラムを支援している。

(2) 日本人学生と留学生が履修し協働学習できる英語による教育プログラムの充実

国際化推進会議の下にWGを設置し、これまで4回審議を重ね、プログラムの概略までは策定したが、今後、内規の制定、開講授業科目の最終選定、担当者への手当等の課題が未解決のままである。

(3) 国際的大学交流制度への参加

アジア太平洋大学交流機構（UMAP: University Mobility in Asia and the Pacific）への参加とUMAP交換留学生の受け入れを検討中である。制度への加入については、既に令和元年7月5日の企画運営会議で了承を得ているが、上記の英語による教育プログラムの完成のめどが立つまで暫時保留にしている。

(4) 留学生用宿舎の確保

現在、国際交流会館、留学生会館梅林と同片江の3つの留学生用宿舎があるが、このままでは近年中に宿舎が不足するのはほぼ確実である。そこで、令和元年度より、学生部の協力により、国際交流会館の日本人学生と留学生の入居者比率を6:4から5:5に引き上げた（留学生の入居者数は10名増加し、50名となった）。民間の借り上げ宿舎の確保も検討中である。

(5) 国際センターと留学生別科の一体的運営

先に触れた国際化推進専門部会からの答申にある課題の一つに、国際センターと留学生別科の一体的運営がある。平成28年度から、国際センター長は留学生別科長を兼任し、国際センター事務室と留学生別科事務室は国際センター事務部の組織に入ることになった。散在する両事務室の効率アップのため、令和2年2月29日に、別科事務室を1号館1階の国際センター事務室内に移転した。また、令和5年度以降には、そろって竣工予定の文系学部棟（仮称）への移転が計画されている。

また、アジア諸国との交流の活性化の一貫として、これまで国際センターが主管となり実施してきた「アジア圏協定校との学生交流セミナー」は、令和元年度で16回目を向かえた。令和元年度はアジア圏協定校13校から15人の研修生を招待し、本学の学生11人とメインテーマ『あなたが描く働き方とは？ーアジア各国の現状とこれからー』に沿って共同学習し、最後に学習発表会を行った。令和2年度のセミナーでは、アジア圏にある福岡大学の協定校から参加する学生たちと英語で協働学習を行い、様々な国の学生たちとの交流を通じて、互いに学びを深め合う。

福岡大学を中心に最新の研究が行われている研究室や施設等をアジア圏協定校の学生と一緒に訪問し、文化・言語の異なる同世代で様々な経験を共有することができる内容とする。

先に、令和2年7月1日現在、海外協定校総数は82校にまで伸びていると報告したが、英語圏に限ると、イギリスのリーズ大学、ニューカッスル大学、セントラル・ランカシャー大学の3校とは長期（1年間）の交換交流（派遣・受入れ）を実施しているが、アメリカのウオッシュバン大学、シアトル大学、オーストラリアのグリフィス大学とは短期（1ヶ月）の交流のみ、カンザス大学、ジョージア工科大学とは現在交流を実施していない。アメリカの大学への交換留学を希望する学生も少なくないため、将来的には、本学最初の協定校でもあるウオッシュバン大学との間で長期の交換交流を新設してはいかがであろうか。

3-3.【活動指針3】に沿った総括

FDについては、近い将来、共通教育ないしは専門科目の授業を英語で行う予定のある、または英語で授業を行うことに高い関心を持つ本学教員を対象に、「海外短期教育研修」を毎年夏季休暇中に実施している。これまで平成26年度から6年間に、計27人が参加した。「派遣前学内ワークショップ」（2日間）を受講後、オリエンテーションを経て、約10日間、アメリカ・ネブラスカ州オマハにあるネブラスカ大学オマハ校での研修に参加してもらっている。令和元年度は、法学部、商学部、理学部、医学部、薬学部、スポーツ科学部から各1名、合計6名の教員を派遣した。帰国後のアンケートを分析すると、ワークショップおよび研修に対する満足度が非常に高いことが分かる。

SDについては、これまで2回実施してきた「異文化コミュニケーション研修」があげられるが、平成30年度は職員9名のみの参加に留まったため、令和元年度から人材開発課が主管となり、新しい企画を検討したが、実施には至らなかった。

シラバス、ウェブサイト、パンフレットなどの多言語化については、英語を中心に多言語化を進めている。国際センターにおいては、G.A.P.科目のシラバスは、授業で使用する言語に合わせて日本語もしくは英語、ウェブサイトは日本語と英語、各種パンフレットは日本語と一部英語で作成している。学部留学生選抜要項は日本語のみであるが、現在、大学院選抜要項の英語版策定が進んでいる。

留学生別科においては、シラバスは日本語であるが、ウェブサイトは日本語、英語、中国語（簡体字）、韓国語、パンフレットは日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、ベトナム語、募集要項は日本語、英語、中国語（簡体字）、韓国語で作成している。

カリキュラムの体系化と整備については、既に学部ではカリキュラムマップやカリキュラムツリーの作成を行っているが、今後は海外からの学内教育情報の可視化のため、シラバス等の英語化が望まれる。

また、グローバル人材育成推進の全学支援の一環として、国際センター教員は共通教育科目への出講を行っている（平成26年度より令和2年までGEクラス担当。また、令和2年度は、コロナ禍で入国できない学部留学生を対象に新設されたフレッシュマン・イングリッシュ、インターミディエイト・イングリッシュのクラスを担当。その他、令和元年度は工学研究科研究生の日本語授業を実施）。

一方、教育環境のグローバル化を進めるにあたっての問題点の一つとして、英語で授業を行う場合、担当する教員にかかる負担を考慮したインセンティブが考慮されていない現状があげられる。例えば、G.A.P.科目の場合、担当しても学部の担当科目のように職務上のノルマとしては換算されず、他大学で非常勤科目を担当する場合に比べると報酬も非常に低い。過去7年間、国際センター教員以外が担当するG.A.P.科目は、担当者の善意に頼って提供されてきたとも言える。一部教員の熱意と善意に頼っての運営では将来にわたって広く大学全体のグローバル化に寄与することは難しいと考えられるので、今後、グローバル人材育成事業推進のため、英語で行われる授業を増やすのであれば、担当教員の負担を適切に評価する仕組みづくりが必要だと考えられる。

4. その他関連する報告ならびに将来的な課題と展望

4-1. TOEIC®Listening & Reading Test 受験者の増加

本学における TOEIC®Listening & Reading Test（略して TOEIC®L&R）については、平成30年度よりグローバル人材育成推進事業経費の一部を補填して、学生一人当たりの受験料負担を TOEIC IP テスト（Institutional Program、本学で実施する団体特別受験制度）では1,000円、公開テストでは2,000円に改めたため、受験者数は、平成29年度の937名から一気に1,326名まで伸びた。そして、令和元年度の10月末の集計では1,141名に上り、年度末には確実に昨年度を上回る勢いである。受験者全体のスコアの平均値は、この3年間で、473.8点（平成29年度）、473.8点（平成30年度）、468.8点（令和元年度）とほぼ横ばい状態ではあるが、受験者総数が大幅に増えていることと、平成30年度の全国における大学生の平均値が454点であることを考慮すれば、決して悲観するようなスコアではないと判断できる。

4-2. デュアル・ディグリー・プログラム導入への取り組み

高等教育の国際通用性の向上と国際競争力の強化を目的とする大学のグローバル化の施策の一つとして、外国の大学との共同プログラムの開設や共同での学位授与の取り組みが推奨されている。本学では現在、マルタ共和国にある国立大学 Malta College of Arts, Science & Technology（略して MCAST）と本学との間でデュアル・ディグリー・プログラムを提携することを最終目標として、両大学間での協定の締結を進めたいと考えている。これについては、現地NPO法人M-Projectの協力を得て、令和元年8月2日には前執行部向けに、同年9月19日には国際センター運営委員会向けに、プログラムの概要についてプレゼンテーションを行った。12月12日には、マルタ共和国アンドレ・スピテリ全権大使が朔啓二郎学長を表敬訪問された。

（MCAST 側受け入れ担当者）

名 前： ベラ、スティーブン（苗字: ベラ）
（Vella, Stephen）

役 職： マネージングディレクター
（Managing Director, MCAST Gateway to Industry Ltd）

連絡先： MCAST Students' House, Corradino Hill, Paola PLA 9032 Malta

4-3. 学内外の連携によるグローバル化の広がり

本学でのグローバル人材育成推進事業開始から今年で9年目となり、当初の計画には書かれていない学内外の連携によるグローバル化の広がりが見られるようになってきている。例えば、受講生がグローバル化リテラシーを習得することを目的として、国際センター教員をはじめとするグローバル化教育に精通した教員と、地域特性・専門性・産学連携に精通した学部教員および学外の講師が自らの経験を参考にオムニバス形式で講義を行う「国際化と日本（東アジアと福岡）」（科目責任者：三島健司教授）という科目が共通教育の1科目として開講され、令和元年度後期の履修者は125名を集めている。また、アメリカ、ネブラスカ大学での「海外短期教育研修」に参加した教員と国際センター教員の連携により、医学部の「グローバル人材演習」（科目責任者：安元佐和教授）では、本学に在学している交換留学生や留学生別科の学生が英語話者の患者役で参加する医療面接の授業も継続して実施されている。また、G.A.P.に関する本学HPを見た福岡市役所研修企画課からの要請により、令和元年8月には福岡市役所職員を対象とする「グローバルマインド研修」（講師：佐々木有紀准教授）が実施され、本学のグローバル人材育成推進事業の経験に基づく学外への社会貢献も始まっている。

その他、国際センターでは、福岡県留学生サポートセンターを通じてのインドネシア等、アジア諸国からの大学・教育機関関係者や附属若葉高等学校の協定校であるシンヒョン高校（韓国）の本学訪問等にも対応している。

今後は、国際センターと各学部や他部署、さらには学外の産学官との連携も視野に入れたグローバル人材育成推進事業のさらなる発展をめざしたい。

4-4. 「G.A.P.e ナビ」の整備

正興ITソリューションの技術協力を得て、G.A.P.独自のeポートフォリオである「G.A.P.e ナビ」を完成させた。G.A.P.科目を履修する学生向けに、「お知らせ」、「履修登録」、「履修（学習）状況の確認」、「修了要件の確認」、「各種英語外部テストのスコアの登録」、「海外渡航履歴の登録」を主たる機能としており、受講生一人一人の目標と現状を可視化し、G.A.P.修了までナビゲートする役割を果たすとともに、就職活動時にはこれをファイ

ル化して利用することが可能である。平成29年度後期から、学生はこの「G.A.P.e ナビ」を使い G.A.P. 科目の履修登録を行ってきた。しかし、当初予定していた学内のデータシステムとの連携を行うことが出来ず、データ管理等のため毎年運用コストがかかるため、令和3年度以降は G.A.P.e ナビの運用は行わない予定である。

5. G.A.P. の今後の課題

「基本計画委員会国際化推進専門部会」の答申にもある通り、G.A.P. の受講生者数が思った程伸びない要因としては、

- (1) G.A.P. 科目は一部を除き正課外であり、通常の時間割編成では正課科目優先となっている。
- (2) 卒業要件単位として認定されないため、受講へのモチベーションが上がらない。
- (3) 海外留学を修了要件としているため経済的負担がある。
- (4) G.A.P. のシステムが複雑であり、学生にとって受講のハードルが高い。
- (5) 修了までに必要な単位数を正課外で取得していくには、学生への負担が大きすぎる。

などが考えられる。

5-1. G.A.P. の成果

3-1. 【活動指針1】に沿った総括において、グローバル人材としての学生の成長に G.A.P. が寄与していることについてデータをもとに述べたが、以下の点においても成果があったと思われる。

- (1) 英語学習・海外留学に興味のある学生の掘り起こし
- (2) 英語で授業を行う科目を提供し、交換留学生の交換単位を出すことが出来た
- (3) 日本人学生と交換留学生との交流促進
- (4) 交換留学生の TA としての雇用

5-2. 令和3年度以降のグローバル人材育成推進事業

平成24年度から実施されてきたグローバル人材育成推進事業は、令和2年度で当初の予定である第三期の最終年を迎えた。その事業の中心的役割を果たしてきた G.A.P. については、正課外のため受講の優先度が低いことや制度が複雑で受講のハードルが高かったという問題があり、受講生・修了生の伸びが思った以上に見られなかった。

このことに鑑み、この第三期の区切りである令和2年度をもって、「グローバル・イングリッシュ GE 海外研修」「海外インターンシップ」などの海外研修を伴う科目及び英語による授業を中心とした G.A.P. を終了する。

国際センターとしては、その一部を引き継ぎ国際センタープログラムへ移行・統一することによって、①国際センタープログラムの一本化、②国際センタープログラムの更なる充実、が図れると考えている。

また、G.A.P. 以外のグローバル人材育成推進事業は継続し、引き続きグローバル人材の育成に取り組んでいきたいと考えている。国際センターとしては、より多くの学生がわかりやすく参加しやすい、全学支援を目的とした短期間の海外研修や語学講座、インターネットを積極的に活用したウィズコロナ時代対応型の国際センターのグローバル人材育成プログラムの充実を目指していきたい。以下は、短期・中期・長期目標である。

【短期的目標として】

- ①令和2年度、3年度、新型コロナウイルス感染症が学内に広がらないように、最善の防衛体制を整え、維持する。
- ②令和2年度、海外への渡航、留学生などの入国・帰国に関して、細心の注意を払い対処する。
- ③各学部の独自の国際交流（工学部の国際プレゼンコンテストなど）を支援する。
- ④各学部のインターネットを利用した国際交流を奨励する。
- ⑤協定校の拡大

【中期目標として（令和3年度、4年度）】

- ①海外からの外国人の入国者数の増加が望めない中で、新型コロナウイルス感染症の学内での拡大を極力抑えつつ、既に国内に入国している日本語学校在学の外国人に対して、福岡大学、留学生別科、福岡大学大学院への進学を組織的に勧誘する。
- ②各学部の独自の国際交流（工学部の国際プレゼンコンテストなど）を支援するための制度を確立する。
- ③インターネットを利用した国際交流を支援するためのインフラ整備を行う。

- ④長期目標を実現するためのインフラ整備の準備を行う。
- ⑤協定校との実質的な交流の活性化
- ⑥外国人留学生、外国人研究生の倍増計画の立案と実効

【長期目標として（令和5年度以降）】

- ①安全を確保しつつ、海外からの外国人の入国者数の増加を図る。
- ②海外研修等の活性化
- ③外国人留学生、外国人研究生の倍増計画の総括と改善

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、本学学生のご父母が、子供の海外派遣に慎重になる可能性がある。また、海外へ自由に行き来するには、まだ時間が必要になるかもしれない。海外の大学生が福岡大学へ進学を希望したとしても、ビザ発給が滞ることも考えられる。

そこで、令和3年度以降は、オンラインでの取り組みも加えながら、将来的に海外へ通用する人材を作り、かつ福岡大学と海外の大学とのネットワーク構築を意識したプログラムを運営したい。

また、異文化対応力尺度や BEVI-j など、GE クラスで有効性が認められた海外研修や留学の効果検証ツールは、本学のグローバル人材育成推進事業の成果を示すべく、国際センター所管の海外研修プログラム参加者に加え、全学へとその対象者を広げて利用を促進したい。

5-3. 国際センターの具体的な取り組み

(1) 特別授業の拡充（現在、中国語・朝鮮語・フランス語を開講）

G.A.P.科目として開講していた科目をもとに、英語で学びたいという意欲のある日本人学生に向けた特別授業（英語）をレベル別・分野別に開講する。また、交換留学生との協働学修ができ、かつ交換留学生へ単位付与ができる科目を開講する。

(2) 目的別短期特別講座の実施

G.A.P.講座として実施していた短期講座をもとに、目的別の短期講座を実施する。（交換留学生を TA として雇用し、本学学生との交流を促進するという目的も兼ねている）

(3) オンライン国際交流学習（COIL）の活用と、学生の内面変化の可視化（BEVI-j）

(ア) COIL（Collaborative Online International Learning: オンライン国際交流学習）

- ・ICT ツールを用いて、海外の大学とバーチャルに連携し、海外の学生たちと様々な分野のプロジェクトを実施する。海外渡航に伴う費用や新型コロナウイルス感染症等の理由により、海外渡航（もしくは日本への入国）が難しい時期にも国際交流を継続することが出来る。

(イ) 学生の内面変化の可視化（BEVI-j）

- ・講座開始時及び終了時に BEVI を実施し、留学生との協働学修や海外留学の経験を経た学生の内面変化を可視化する。
- ・福岡大学の教育効果をアピールするべく、国内外での学会で成果を発表する。

(4) ランゲージ・パートナーの実施検討

英語を学びたい日本人と日本語を学びたい交換留学生とのマッチング、日本語を学びたい別科生と別科生の母語を学びたい日本人のマッチングのコーディネートを行う。

5-3-1. 海外からの受け入れ人数を増やすための取り組み

(1) オンライン相談やオンラインセミナーの拡充

- ・本学へ留学を検討している学生に対してのオンライン留学相談やオンラインオープンキャンパスを行う。
- ・本学への派遣が決まっている交換留学生等に対してオンライン上でサポートを行う。

(2) 国際センター HP の充実

- ・公式HPの記事の中で国際交流に関係がありそうなページのリンクを国際センターのHPに掲載する。

(3) 大学院入学者の増加

- ・大学院の選抜要項を英語化しHPに記載。
- ・本学大学院研究科の研究成果を国内外へアピールすべく、大学院事務課、広報課とも協力し、リンクを国際センターHPに掲載する。

5-3-2. 海外への派遣の人数を増やすための取り組み

国際センター独自の海外研修プログラムの充実

- ・G.A.P.関係海外研修として実施していたプログラムを、国際センタープログラムとして実施する。

- ・ベトナムやタイといったアジア圏の大学との短期海外研修プログラムの創設。
- ・交換留学プログラムの創設（マレーシアなど、協定を結んでいるが交流が少ない大学とのプログラムを作る）

5-3-3. その他

- ・令和2年度前期に本国へ帰国する交換留学生との連絡を継続する。福岡大学への留学者を増やすべく、オンラインでの留学相談や国際ヴァーチャル・キャンパスツアー（仮称）などを協定大学向けに実施する。（特に令和2年8月末以降、順次交流が再開されればベトナムやタイから来ている留学生・研修生との関係を維持する）
- ・福岡県内の日本語学校や福岡県留学生サポートセンターとの連携を密にし、福岡大学への進学者を増やす。
- ・海外の大学からの研修生や留学生の受け入れ増加に備えて、滞在できる宿舎の確保を大学に要望していく。（独身者だけではなく、既婚者が今後入学することも考えられるので、本国から家族を伴う可能性も検討しておく）
- ・国際センター HP の英語化などの作業を進めていくにあたり、作業効率化のため「英文校閲料」を予算に計上する。
- ・英語で授業が行われる国際センターの「特別授業」を担当する各学部所属の教員に対しては、非常勤講師と同様のコマ当たりの手当てを受け取れるような適切なインセンティブを考慮する方向で大学に要望していく。

5-3-4. 数値目標

新型コロナウイルス感染症の影響により、現時点では今後数年は派遣・受入共に具体的な目標数値を挙げることは難しいと思われるが、今後の状況の把握に努め、適宜、数値目標を設定していく。

以 上



令和 2 (2020) 年度

国際センター活動報告書

2021 年 4 月 1 日 印刷
2021 年 4 月 6 日 発行

編集・発行 福岡大学国際センター

〒814-0180

福岡市城南区七隈八丁目 19 番 1 号

電話 092-871-6631(代)

Fax 092-873-8420

<https://www.fukuoka-u.ac.jp/>

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu809/home1/a0800000.htm>

印刷 有限会社 新幸印刷



CENTER FOR INTERNATIONAL PROGRAMS
FUKUOKA UNIVERSITY